



# 国立特別支援教育総合研究所要覧

NISE Outline of the National Institute of Special Needs Education, Japan





## 目次 Contents

ミッション(使命) .....	2
Mission of NISE .....	2
ビジョン(改革・改善の方向性) .....	2
Vision of NISE .....	2
理事長あいさつ .....	3
President's Message .....	3
沿革 .....	3
History .....	3
組織・役職員 .....	4
Organization/Staff .....	5
業務部門 .....	6
Departments .....	7
研究 .....	8
Research .....	10
研究者一覧 .....	32
Research Staff .....	33
研修事業 .....	36
In-Service Teacher Training .....	37
教育相談 .....	40
Counseling and Consultation for Persons with Special Needs .....	41
情報普及 .....	42
Information Services .....	43
発達障害教育情報 .....	46
Information of Education for the persons with Developmental Disabilities .....	47
国際交流 .....	48
International Exchange .....	49
連携 .....	50
Collaboration .....	51
予算・施設 .....	52
Budget and Facilities .....	52
所在地・連絡先 .....	53
Address and Contact .....	53

## ミッション(使命)

我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンターとして、国や地方公共団体等と連携・協力しつつ、国の政策的課題や教育現場の課題に柔軟かつ迅速に対応する業務運営を行い、もって障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に貢献します。

## Mission of NISE

The mission of our institute as the National Institute of Special Needs Education is to contribute to: Improving the quality of education for children with disabilities and to make educational provision to meet individual educational needs. We aim to do this by working with the national and local government organizations.

## ビジョン(改革・改善の方向性)

- 1. 国の行政施策に寄与する研究活動**  
国の政策的ニーズを把握し、それに対応した行政施策の企画立案及び実施に寄与する研究を行います。
- 2. 現場の教育活動に資する実践的研究**  
教育現場のニーズを把握し、それに対応した、大学では実施困難な研究や先導的かつ実践的な研究を行い、研究成果を教育現場に還元します。
- 3. 指導者養成のための専門的な研修事業**  
地方公共団体において特別支援教育の指導的な役割を果たす教職員を対象に、体系的・専門的な研修事業を実施し、各地方公共団体が教職員の専門性・指導力を高める活動を支援します。
- 4. 新しい課題に対応した研修事業**  
国の政策的な課題や教育現場の喫緊の課題について、柔軟かつ迅速に研修事業を実施するとともに、研修事業に関する情報を提供し、地方公共団体における研修事業の企画立案及び実施を支援します。
- 5. 地方公共団体を支援する教育相談活動**  
教育相談実施機関に対するコンサルテーションや教育相談に関する各種情報提供を行い地方公共団体における教育相談機能の質的向上を支援するとともに、地方公共団体では対応が困難な事例等に特化した教育相談を実施します。
- 6. 特別支援教育関係情報の収集・分析・普及**  
特別支援教育に関する国内外の情報を収集・分析・整理するとともに、総合的な教育情報提供体制を構築し、教職員の専門性や指導力の向上に必要な基礎的・専門的知識等を教育現場等に提供します。
- 7. 国内外の大学等関係機関との連携・協力**  
国内や海外の大学、研究機関等と連携・協力し、共同研究や国内・国際セミナー、国際協力等を実施して、課題について調査、分析、評価等を行うとともに、アジア・太平洋地域をはじめ諸外国に対し我が国の実践的な研究成果を発信します。

## Vision of NISE

- 1. Research Activities that contribute to National Administrative Needs**  
To undertake research that contributes to the formulation of National Policy for Children.
- 2. Practical Research that contribute to Educational Site**  
To undertake advanced and practical research that contributes to educational site.
- 3. Specialized Programs for Teacher Training**  
To provide systematic and special training for the school staff who plays the role of leadership in special needs education from local public organization and support them.
- 4. Training Programs that Respond to New Challenges**  
To implement training program for the major issue of National Policy and/or urgent issue at educational site flexibly and promptly.
- 5. Counseling and Consultation Activities that Supports Local Public Organization**  
To conduct consultation and provide the information for counseling and consultation to the organizations.
- 6. Information for Special Needs Education**  
To collect, analyze, arrange and make database of the information on special needs education from domestic and overseas and provide comprehensive information to teaching site.
- 7. Cooperation and Partnership with Universities and Organizations in Domestic and Overseas**  
To collaborate and cooperate with universities and organizations in domestic and overseas through seminars, to share our practical research results in special needs education. Also to research, analyze and evaluate the issues.

## 理事長あいさつ

本研究所は、昭和46年の設立以来、我が国の特殊教育・特別支援教育のナショナルセンターとして、研究活動を中心に障害のある子どもの教育に関する様々な活動を行ってきました。

平成19年4月には子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行うことに重点をおいた特別支援教育制度がすべての学校において始まりました。

このことは誰もが待ち望んでいたことであり、特別支援教育制度の下では、どの子どもも障害のあるなしにかかわらず、一人一人が豊かになっていかなければなりません。

本研究所においても、特別支援教育推進のため政策的課題や教育現場のニーズに対応する研究活動、指導的な教職員への専門的な研修の実施や各地方公共団体の教育相談に対する支援、研究成果等の情報普及、諸外国との研究者交流等を全職員が参画して一体的に取り組んでいきます。

今後とも、このような取組を通じて、支援を必要とする子どもたち一人一人に対応した教育の充実のため、これまで以上に努力をしてまいります。

皆様方の一層の御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成22年5月

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

理事長 小田 豊

## President's Message

As Japan's national center for special education and special needs education, the National Institute of Special Needs Education, Japan (NISE) has engaged in various activities related to the education of children with disabilities, with a focus on research activities, since its foundation in 1971.

In April 2007, a special needs education system was applied to all schools in the country with priority on supporting the educational needs of individual children.

This had long been awaited. Whether they have disabilities or not, individual children must lead a productive life under the special needs education system.

In order to promote special needs education, NISE will work on issues concerning research activities related to national policy and educational needs, specialized training for supervising teaching staff, support for counseling and consultation services provided by municipalities, distribution of research results and other information, and exchange with foreign researchers, in an integrated manner with the participation of all staff.

Through these activities, NISE is working hard to improve the education of individual children who need support. Finally, I would like to thank everyone who supports our activities, and ask for your continued assistance.

May 2010

ODA Yutaka

President of the National Institute of Special Needs Education, Japan

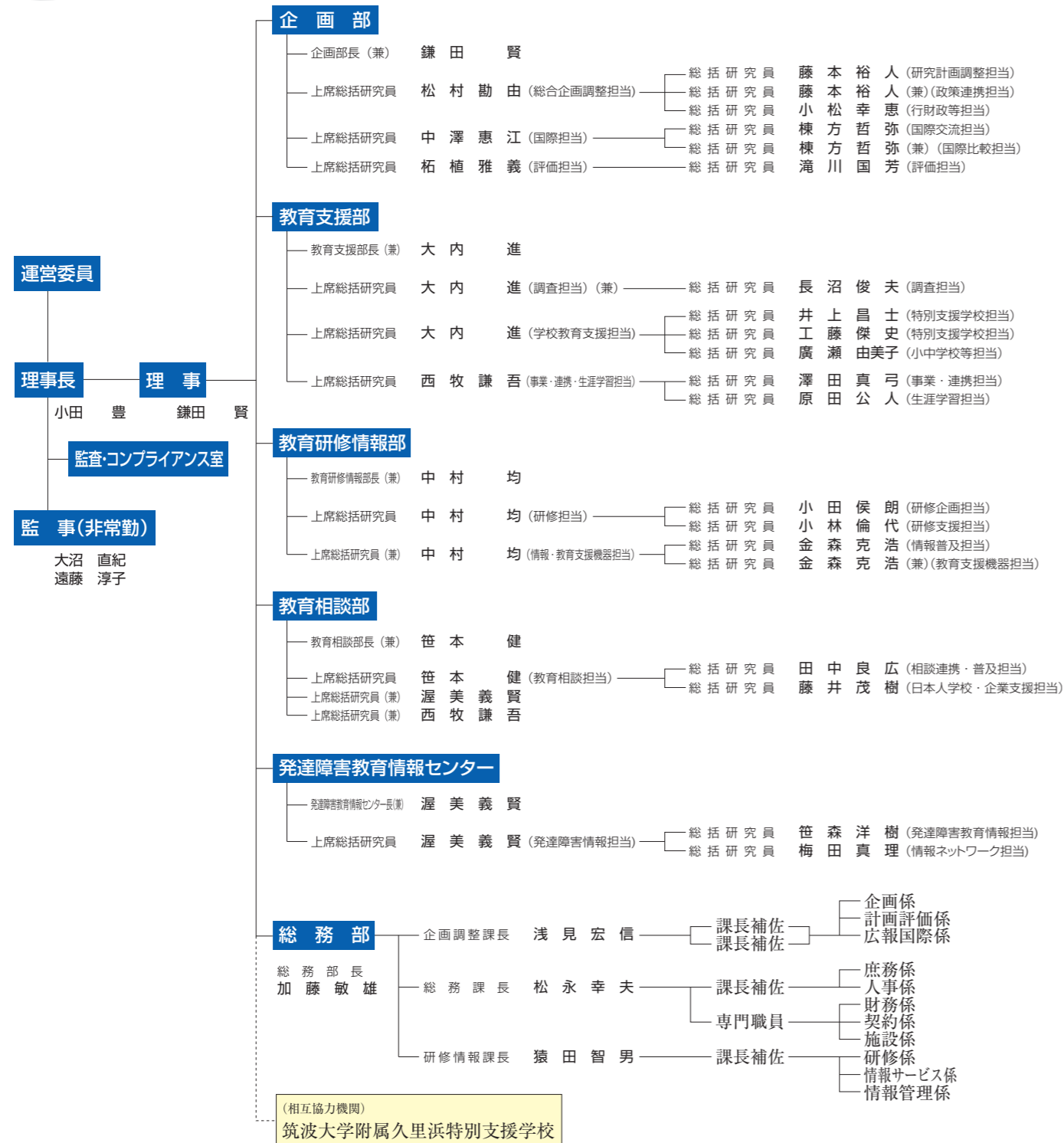
## 沿革

- 昭和46年10月  
国立特殊教育総合研究所の発足
- 平成13年4月  
独立行政法人国立特殊教育総合研究所の発足
- 平成16年4月  
組織改編(企画部, 総務部, 教育支援研究部, 教育研修情報部, 教育相談センター)
- 平成18年5月  
教育相談部設置(教育相談センターを改称)
- 平成19年4月  
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所に名称変更
- 平成20年4月  
教育支援研究部を教育支援部に名称変更, 発達障害教育情報センター設置 研究班体制を実施
- 平成20年8月  
発達障害教育情報センターWebサイトを公開

## History

- Oct. 1971  
Commencement of NISE
- Apr. 2001  
Commencement of NISE as an independent administrative agency
- Apr. 2004  
Reorganization (Department of Policy and Planning, Department of Administration, Department of Educational Support Studies, Department of Teacher Training and Information, and Counseling and Consultation Center)
- May 2006  
Established Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs (change the name of Clinical Center for Children with Special Needs)
- Apr. 2007  
Renamed to "National Institute of Special Needs Education"
- Apr. 2008  
Renamed Department of Educational Support Research to Department of Educational Support  
Established the organization of Information Center of Education for the persons with Developmental Disabilities  
Introduced Research Unit System
- Aug. 2008  
Established a website of Information Center of Education for the persons with Developmental Disabilities





- 運営委員**
- 飯塚 敏幸 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局理療教育・就労支援部長
  - 池田 由紀江 筑波大学名誉教授
  - 梅谷 忠勇 日本特殊教育学会理事長(明星大学人文学部教授)
  - 尾崎 祐三 全国特別支援学校校長会会長(東京都立南大沢学園特別支援学校校長)
  - 加我 牧子 国立精神・神経センター精神保健研究所長
  - 香川 邦生 健康科学大学健康科学部教授
  - 河本 眞一 全国特別支援学級設置学校長協会会長(中野区立桃園小学校校長)
  - 小宮 憲次 全日本中学校長会生徒指導部長(世田谷区立戸花中学校校長)
  - 澤田 和成 筑波大学教授(筑波大学附属久里浜特別支援学校校長)
  - 鈴木 茂樹 全国聾学校長会会長(東京都立中央ろう学校校長)
  - 素川 富司 国立教育政策研究所長
  - 須藤 勝 全国高等学校長協会常務理事(東京都立桜修館中等教育学校校長)
  - 田中 誠 全国連合小学校長会特別支援教育委員会委員長(八王子市立愛宕小学校校長)
  - 辻 誠一 宮城県特別支援教育センター所長

- 土井 富夫 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長(東京都立城北特別支援学校校長)
  - 藤井 良一 神奈川県教育委員会教育長
  - 三浦 和 全国特別支援教育推進連盟理事長
  - 明官 茂 全国特別支援学校知的障害教育校長会会長(東京都立青島特別支援学校校長)
  - 村上 芳則 国立学校法人筑波技術大学長
  - 山田 洋子 全国特別支援学校病弱教育校長会会長(東京都立久留米特別支援学校校長)
- 役員・職員数 (平成22年度)**
- |     |        |
|-----|--------|
| 役員  | 4 (2)  |
| 一般職 | 27     |
| 研究職 | 44     |
| 合計  | 75 (2) |
- ( )内は非常勤で内数

- Board of Counselors**
- IIZUKA Toshiyuki
  - IKEDA Yukie
  - UMETANI Tadao
  - OZAKI Yuzo
  - KAGA Makiko
  - KAGAWA Kunio
  - KAWAMOTO Shinichi
  - KOMIYA Kenji
  - SAWADA Susumu
  - SHISHIDO Kazushige
  - SUZUKI Shigeki
  - SUGAWA Tomiji
  - SUDO Masaru
  - TANAKA Makoto
  - TSUJI Seichi

- DOI Tomio
  - FUJII Ryoichi
  - MIURA Hitoshi
  - MEIKAN Shigeru
  - MURAKAMI Yoshinori
  - YAMADA Yoko
- Staff (FY 2010)**
- |                 |        |
|-----------------|--------|
| Executive Staff | 4 (2)  |
| Clerical Staff  | 27     |
| Research Staff  | 44     |
| Total           | 75 (2) |
- ( ) shows the number of part-time staff included.

## ■業務体制

本研究の使命である業務運営を、柔軟かつ迅速に対応できる体制として、理事長・理事の下、企画部、教育支援部、教育研修情報部、教育相談部、発達障害教育情報センター及び総務部の6部体制で業務を推進しています。各部（事務である総務部を除く）の業務概要は次のとおりです。

### 企画部

企画部は次の3つの業務を推進しています。

#### ○総合企画調整

研究に関する総合的な企画及び立案・調整に関すること。研究班編成や研究課題設定等、本研究所で実施される研究活動の調整。障害者の教育に関する政策課題、関係法制及び行政政策に関する調査・分析に関すること。

#### ○国際

障害者の教育に係わる国際交流並びに国内関係情報の海外への紹介、国際セミナーの企画、実施、外国の障害者の教育に関する基礎的事項の調査及び研究に関すること。

#### ○評価

本研究所の業務に係る評価に関する企画及び立案に関すること。

### 教育支援部

教育支援部は次の3つの業務を推進しています。

#### ○調査担当

本研究所が実施する調査の全体計画に関すること、各調査に関する文部科学省等との連携、特別支援教育に関する基本データ調査に関すること。

#### ○学校教育支援担当

特別支援教育の理解・啓発・普及推進に関すること、交流及び共同学習の推進に関すること、関係校長会や関係団体との連携・連絡調整に関すること、教育課程や特別支援学級等の支援に関すること等。

#### ○事業・連携・生涯学習担当

本研究所主催セミナーの企画・実施や、医療・労働・福祉等関係機関などに関する連携協力や特別支援教育の理解啓発に関すること、障害者の生涯学習、高等教育における学習支援に関すること等。

### 教育研修情報部

教育研修情報部は次の2つの業務を推進しています。

#### ○研修担当

・研修企画  
本研究所の行う研修事業の企画及び立案に関すること。  
・研修支援  
地方公共団体の研修等の調査及び、インターネットによる配信講義等の開発・提供に関すること。

#### ○情報・教育支援機器担当

・情報普及  
研究成果の普及に関すること（他の部及びセンターの所掌に関するものを除く）。  
・教育支援機器  
障害者の教育、教材及び教育支援機器に関する情報・資料の収集・提供や評価・活用及び関係者の支援に関すること。

### 発達障害教育情報センター

発達障害教育情報センターは、発達障害に関する情報の収集・調査・研究を推進し、これらをもとにしたWebサイトによる情報提供・関係者への支援・理解啓発や教員研修用講義コンテンツの作成・配信及び関係諸機関との連携・調整に関する業務を推進しています。

### 教育相談部

教育相談部は次の3つの事業を行っています。

#### ・特別支援教育のナショナルセンターとして行う教育相談

発生頻度の低い障害等の各都道府県等では対応が困難な事例に関する教育相談、日本人学校等の保護者からの教育相談、臨床的研究のフィールドとして必要な教育相談。

#### ・各都道府県等における教育相談機能の質的向上に関する支援

通信・来所・訪問による学校コンサルテーションや教育相談事例等データベースによる情報提供及び学校相談マニュアルや教育相談年報の刊行。

#### ・教育相談に関する研究の推進

日本人学校、補習授業校、幼児教育施設の実態調査や教育相談機能の実態調査、及び、調査結果をもとにしたWebサイトでの発信。

## ■Departments and Their Duties

Under the leadership of the President and Executive Directors, NISE is carrying out its mission flexibly and promptly with six departments: Department of Policy and Planning, Department of Educational Support, Department of Teacher Training and Information, Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs, Information Center of Education for Persons with Developmental Disabilities, and Department of Administration.

These departments (excluding the Department of Administration) and their duties are outlined below.

### Department of Policy and Planning

The Department of Policy and Planning is conducting the following three projects.

#### ○Comprehensive planning and coordination

Comprehensive planning and coordination related to NISE's research projects; coordination of NISE's research activities such as organizing research units and planning research themes; surveys and research on policy issues, legislative and administrative policies issues related to education for persons with disabilities

#### ○International projects

International exchange activities in the field of education for persons with disabilities; provision of Japanese information related to education for persons with disabilities to the foreign countries; planning and hosting of international seminars in the field of special needs education; and conducting surveys and research on basic data relating to education of persons with disabilities in foreign countries

#### ○Evaluation

Planning related to evaluation of projects implemented by NISE

### Department of Educational Support

The Department of Educational Support is conducting the following three projects.

#### ○Survey

Overall planning of research projects implemented by NISE; collaboration with the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) in surveys; and surveys of basic data related to special needs education

#### ○Support for Education in Regular Schools

Promotion of understanding, awareness, and dissemination of special needs education; promotion of exchange and collaborative learning; collaboration, liaison, and coordination with the relevant associations of school principals and other related groups; and curriculum and support for classes for special needs education

#### ○Coordination, Collaboration and Lifelong Learning

Planning and hosting of seminars organized by NISE; collaboration with institutions related to medical care, labor, and welfare; awareness campaigns on special needs education; and support for lifelong learning and tertiary education of persons with disabilities

### Department of Teacher Training and Information

The Department of Teacher Training and Information is conducting the following two projects.

#### ○In-service Teacher Training

・Planning of training courses  
Planning of in-service teacher training programs at NISE.  
・Support for training

Surveys of training programs provided by local education boards, and development and provision of online training.

#### ○Information Resources and Assistive Technology

・Information services  
Dissemination of research results (excluding results of research conducted by other departments and the center).  
・Assistive technology devices

Collection, provision, evaluation, and utilization of information and data on teaching, teaching materials, and assistive technology devices for education of persons with disabilities and support for persons who use or need them.

### Information Center of Education for Persons with Developmental Disabilities

The Center of education for Persons with developmental disabilities carries out collection, search and analysis of information related to the education for persons with developmental disabilities in cooperate with relevant organizations and disseminates that information in easily comprehensible ways. Through these activities, this center promotes the educational supports for persons with, and awareness of developmental disabilities.

### Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs

The Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs is carrying out the following three duties.

#### ・Counseling and consultation offered to NISE as the national center for special needs education

Counseling and consultation for cases that are difficult for prefectures and municipalities to handle, such as low incidence disabilities; counseling and consultation for persons with special needs and their guardians in Japanese schools overseas; and counseling and consultation required as part of clinical research  
・Support for qualitative improvement of counseling and consultation functions of prefectures and municipalities

Telephone or online consultation for schools and consultation at NISE or schools; information services using counseling and consultation database; and publication of school counseling manuals and counseling and consultation annual report

#### ・Promoting research on counseling and consultation

Surveys of Japanese schools overseas, supplementary schools, facilities for early childhood education; surveys of counseling and consultation agencies for persons with special needs; and provision of information based on survey findings on the website



## ■研究体制

本研究所では、国のナショナルセンターとして障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育の実現に寄与するために、国の政策課題や教育現場等の喫緊の課題等、重要性の高い研究に取り組んでいます。

こうした研究活動をより戦略的組織的に推進するために、平成20年度から「研究班」制を導入するとともに、

## ●研究班

研究班は、障害種を超えた横断的課題や障害種等に応じた専門性に対応して、5研究系に繋がる13の研究班で構成されています。

研究系は、総合的横断的な課題に対応する「特別支援教育研究系」と障害種等に応じた課題に対応する研究系に大きく二分されます。障害種等に応じた研究系は、さらに「重複障害研究系」「感覚障害・言語障害研究系」

## 平成22年度 研究班所属一覧

研究班	班長	副班長	メンバー				主な研究内容				
			上席総括研究員		総括研究員			主任研究員	研究員		
特別支援教育研究系	○障害のある子どもの教育の在り方に関する研究班 (在り方班)	藤本 裕人	大内 進 徳永亜希雄 菊地 一文	渥美 義賢 大内 進 笹本 健	中澤 恵江 西牧 謙吾 松村 勘由	工藤 傑史 滝川 国芳 田中 良広	藤井 茂樹 藤本 裕人 廣瀬由美子	金子 健 横尾 俊 菊地 一文 徳永亜希雄	齊藤由美子 土井 幸輝	・長期展望に立った障害のある子どもの教育の在り方、インクルーシブ教育など ・脳科学と障害のある子どもの教育、ICFと特別支援教育 など	
	○特別支援教育の推進に関する研究班 (推進班)	柘植 雅義	松村 勘由 澤田 真弓 藤井 茂樹	渥美 義賢 大内 進 柘植 雅義 中村 均 松村 勘由		井上 昌士 梅田 真理 小田 侯朗 金森 克浩 小林 倫代 小松 幸恵 笹森 洋樹	澤田 真弓 滝川 国芳 長沼 俊夫 原田 公人 藤井 茂樹 棟方 哲弥	大崎 博史 大城 政之 小澤 至賢 猪子秀太郎 海津亜希子 久保山茂樹 玉木 宗久	伊藤 由美 植木田 潤 柳澤亜希子 涌井 恵	・特別支援教育政策、行財政、制度の運用改善（システム、個別の教育支援計画、コーディネーターなど）、学校・学級マネジメント、教育課程、地域支援、地域・外部機関連携、教育環境 など	
	○障害のある子どもの就学、進学、就労等支援及び高等教育支援に関する研究班 (移行支援班)	原田 公人	小林 倫代	大内 進		梅田 真理 小林 倫代 笹森 洋樹 田中 良広	原田 公人 藤井 茂樹	大城 政之 小澤 至賢 久保山茂樹 玉木 宗久	植木田 潤 柳澤亜希子	・障害者の早期支援に関すること ・障害者の就学、進学及び就労の支援に関すること ・障害者の高等教育における学習支援方策等に関すること ・障害者の生涯学習に関すること など	
	○情報化及び教育支援機器に関する研究班 (情報・支援機器班)	棟方 哲弥	中村 均	中村 均		金森 克浩 棟方 哲弥			土井 幸輝	・特別支援教育における情報手段活用、教育支援機器の情報・活用・評価・開発 など	
重複障害研究系	○重複障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (重複班)	松村 勘由	中澤 恵江	渥美 義賢 大内 進 笹本 健 柘植 雅義 中澤 恵江	西牧 謙吾 松村 勘由	井上 昌士 小田 侯朗 小林 倫代 笹森 洋樹 田中 良広	長沼 俊夫 原田 公人 廣瀬由美子 藤本 裕人 棟方 哲弥	大崎 博史 横尾 俊	齊藤由美子	・重度の重複障害のある幼児児童生徒、盲ろうの障害のある幼児児童生徒及び複数の障害のある幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び教育方法等に関すること など	
感覚障害・言語障害研究系	○視覚に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (視覚班)	田中 良広	大内 進	大内 進		澤田 真弓 田中 良広		金子 健	土井 幸輝	・視覚に障害（重複障害を含む）のある幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など	
	○聴覚に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (聴覚班)	小田 侯朗	原田 公人	中澤 恵江 松村 勘由		小田 侯朗 原田 公人	藤本 裕人	久保山茂樹 牧野 泰美	横尾 俊	・聴覚に障害（重複障害を含む）のある子どもの幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など	
	○言語に障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (言語班)	小林 倫代	松村 勘由	松村 勘由		小田 侯朗 小林 倫代	藤井 茂樹	久保山茂樹 牧野 泰美		・言語に障害のある子どもの教育課程、教育内容及び方法等に関すること など	
運動障害・健康障害研究系	○肢体不自由のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (肢体不自由班)	長沼 俊夫	笹本 健	笹本 健		金森 克浩 長沼 俊夫		大崎 博史 徳永亜希雄	齊藤由美子	・肢体不自由（重複障害を含む）のある幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など	
	○病弱・身体虚弱等のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (病弱班)	西牧 謙吾	滝川 国芳	西牧 謙吾		滝川 国芳		徳永亜希雄	植木田 潤 土井 幸輝	・病弱・身体虚弱（心因性障害を含む）の幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など	
知的障害・発達障害研究系	○知的障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (知的班)	井上 昌士	工藤 傑史 猪子秀太郎			井上 昌士 工藤 傑史		猪子秀太郎 大崎 博史	小澤 至賢 菊地 一文	涌井 恵	・知的に障害のある幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など
	○自閉症のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (自閉症班)	廣瀬由美子	小澤 至賢	渥美 義賢 大内 進		井上 昌士 廣瀬由美子 笹森 洋樹		猪子秀太郎 大城 政之 小澤 至賢	菊地 一文	柳澤亜希子	・自閉症のある幼児児童生徒の障害特性に関すること など ・自閉症のある幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など
	○発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）のある子ども又は情緒障害のある子どもの特別支援教育に関する研究班 (発達・情緒班)	笹森 洋樹	渥美 義賢 廣瀬由美子	渥美 義賢 柘植 雅義		梅田 真理 小林 倫代 笹森 洋樹 廣瀬由美子 藤井 茂樹		大崎 博史 大城 政之 海津亜希子 久保山茂樹 玉木 宗久	伊藤 由美 植木田 潤 柳澤亜希子 涌井 恵	・全般的な知的発達に遅れはないが、発達に特異な障害（LD、ADHD、高機能自閉症等）のある幼児児童生徒の障害特性に関すること など ・LD・ADHD・高機能自閉症等の発達障害のある幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など ・情緒に障害のある幼児児童生徒の教育課程、教育内容及び方法等に関すること など	

中長期を展望して計画的組織的に研究を推進するために平成20年8月に「研究基本計画」を策定しました。

「研究班」は、「研究基本計画」に基づいて各年度の研究計画を立案し、研究体制の編成、進行管理、評価等を担う研究の実施母体として機能しています。研究班では、それぞれの班が担う課題毎にチームを編成して研究を実施しています。

「運動障害・健康障害研究系」「知的障害・発達障害研究系」の4つに区分されています。

各研究班では、それぞれ研究課題を設定し、課題に応じたチームを構成して研究を推進しています。

なお、特定の課題や班を超えた複合的課題、共通課題などに対しては、必要に応じて関係する班による共同研究体制を敷いたり時限を定めた研究班等を設置したりすることによって研究を推進することとしています。



## Research System

The institute conducts highly important research in areas such as issues concerning national policy and urgent issues related to the classroom, in order to be a national center contributing to the realization of education responding to the individual educational needs of each child with disability. To better promote such research activities strategically and systematically, along with the adoption of the Research Unit System from FY 2008, the institute prepared its "Basic Research Plan" in August 2008, to promote research in a planned and systematic manner with sights set on

## Research Unit

The institute has 13 research units in five research fields to accommodate cross-sectional themes that traverse various types of disabilities and that specialize in a specific type of disability. The research groups can be broadly divided into the Special Needs Education Group, which handles comprehensive, cross-sectional themes, and the research groups covering areas of study that are based on disability type, etc. The latter groups are the Multiple Disabilities Group; Sensory Impairments, Speech

the medium- and long-term perspective. The research units function as the branch of institute that conducts research, drafting the research plan for every fiscal year based on the "Basic Research Plan" and undertaking duties such as preparing the organizational system for conducting research and managing the progress of research projects and evaluating them. The Research Unit System operates by having the respective research units form individual research teams for each theme to be studied that the unit is responsible for.

and Language Impairments Group; Motor Difficulties, Health Impairments Group and Intellectual Disabilities, Developmental Disabilities Group. The research units advance research by establishing individual research themes and forming a team to handle each theme specifically. In addition, joint research systems and set-terms are set up as needed with the participation of the relevant research units, to deal with special themes, cross-sectional interdisciplinary themes and common themes.

## 2010 The Composition of Research Units

Research Unit	Unit leader	Sub leader	Constituent member				Details of major studies				
			Research Director	Senior Chief Researcher	Chief Researcher	Researcher					
Special Needs Education Group	○Research unit on education of children with disabilities (Perspective Unit)	FUJIMOTO Hiroto	OOUCHI Susumu TOKUNAGA Akio KIKUCHI Kazufumi	ATSUMI Yoshikata OOUCHI Susumu SASAMOTO Ken	NAKAZAWA Megue NISHIMAKI Kengo MATSUMURA Kanyu	KUDO Takeshi TAKIGAWA Kuniyoshi TANAKA Yoshihiro	FUJII Shigeki FUJIMOTO Hiroto HIROSE Yumiko	KANEKO Takeshi KIKUCHI Kazufumi TOKUNAGA Akio	YOKOO Shun	SAITO Yumiko DOI Kouki	<ul style="list-style-type: none"> <li>Education of children with disabilities from a long-term outlook, inclusive education, etc.</li> <li>Brain science and education of children with disabilities, ICF and special needs education, etc.</li> </ul>
	○Research unit on promoting special needs education (Promoting Unit)	TSUGE Masayoshi	MATSUMURA Kanyu SAWADA Mayumi FUJII Shigeki	ATSUMI Yoshikata OOUCHI Susumu TSUGE Masayoshi NAKAMURA Hitoshi MATSUMURA Kanyu		INOUE Masashi UMEDA Mari ODA Yoshiaki KANAMORI Katsuhiko KOBAYASHI Michiyo FUJII Shigeki KOMATSU Sachie SASAMORI Hiroki	SAWADA Mayumi TAKIGAWA Kuniyoshi NAGANUMA Toshio HARADA Kimihito FUJII Shigeki MUNEKATA Tetsuya	OSAKI Hirofumi OSHIRO Masayuki OZAWA Michimasa INOKO Hidetaro KAIZU Akiko KUBOYAMA Shigeki TAMAKI Munehisa	MAKINO Yasumi YOKOO Shun	ITO Yumi UEKIDA Jun YANAGISAWA Akiko WAKUI Megumi	<ul style="list-style-type: none"> <li>Policies related to special needs education, administrative and financial measures, improvement of use of systems (systems, individualized education support plans, coordinator, etc.), school and class management, curriculum, community support, cooperation with communities and external organizations, educational environment, etc.</li> </ul>
	○Research unit on support for school attendance, advancement to higher education, and employment of children with disabilities, as well as support for tertiary education (Transition Support Unit)	HARADA Kimihito	KOBAYASHI Michiyo	OOUCHI Susumu		UMEDA Mari KOBAYASHI Michiyo SASAMORI Hiroki TANAKA Yoshihiro	HARADA Kimihito FUJII Shigeki	OSHIRO Masayuki OZAWA Michimasa KUBOYAMA Shigeki TAMAKI Munehisa		UKEKIDA Jun YANAGISAWA Akiko	<ul style="list-style-type: none"> <li>Early support for persons with disabilities</li> <li>Support for school attendance, advancement to higher education, and employment of persons with disabilities</li> <li>Measures to support learning by persons with disabilities in tertiary education</li> <li>Lifelong learning for persons with disabilities, etc.</li> </ul>
	○Research unit on computerization and assistive devices (ICT and Assistive Technology Unit)	MUNEKATA Tetsuya	NAKAMURA Hitoshi	NAKAMURA Hitoshi		KANAMORI Katsuhiko MUNEKATA Tetsuya				DOI Kouki	<ul style="list-style-type: none"> <li>Use of information in special needs education; use, evaluation, and development of information on assistive devices, etc.</li> </ul>
Multiple Disabilities Group	○Research unit on special needs education of children with multiple disabilities (Multiple Disabilities Unit)	MATSUMURA Kanyu	NAKAZAWA Megue	ATSUMI Yoshikata OOUCHI Susumu SASAMOTO Ken TSUGE Masayoshi NAKAZAWA Megue	NISHIMAKI Kengo MATSUMURA Kanyu	INOUE Masashi ODA Yoshiaki KOBAYASHI Michiyo SASAMORI Hiroki TANAKA Yoshihiro	NAGANUMA Toshio HARADA Kimihito HIROSE Yumiko FUJIMOTO Hiroto MUNEKATA Tetsuya	OSAKI Hirofumi YOKOO Shun		SAITO Yumiko	<ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with severe and multiple disabilities, children with deaf blindness, and children with multiple disabilities</li> </ul>
Sensory Disabilities / Speech and Language Group	○Research unit on special needs education of children with visual impairment (Visual Impairments Unit)	TANAKA Yoshihiro	OOUCHI Susumu	OOUCHI Susumu		SAWADA Mayumi TANAKA Yoshihiro		KANEKO Takeshi		DOI Kouki	<ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with visual impairment (including multiple disabilities)</li> </ul>
	○Research unit on special needs education of children with hearing impairment (Deaf and Hard of Hearing Unit)	ODA Yoshiaki	HARADA Kimihito	NAKAZAWA Megue MATSUMURA Kanyu		ODA Yoshiaki HARADA Kimihito	FUJIMOTO Hiroto	KUBOYAMA Shigeki MAKINO Yasumi	YOKOO Shun		<ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum, content of education and teaching methods for children with hearing impairment (including multiple disabilities)</li> </ul>
	○Research unit on special needs education of children with speech impairment (Speech and Language Disorders Unit)	KOBAYASHI Michiyo	MATSUMURA Kanyu	MATSUMURA Kanyu		ODA Yoshiaki KOBAYASHI Michiyo	FUJII Shigeki	KUBOYAMA Shigeki MAKINO Yasumi			<ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with speech and language impairment</li> </ul>
Motor Difficulties/ Health Impairments Group	○Research unit on special needs education of children with physical/motor disabilities (Physical/Motor Disabilities Unit)	NAGANUMA Toshio	SASAMOTO Ken	SASAMOTO Ken		KANAMORI Katsuhiko NAGANUMA Toshio		OSAKI Hirofumi TOKUNAGA Akio		SAITO Yumiko	<ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with physical/motor disabilities (including multiple disabilities)</li> </ul>
	○Research unit on special needs education of children with health impairment (Health Impairments Unit)	NISHIMAKI Kengo	TAKIGAWA Kuniyoshi	NISHIMAKI Kengo		TAKIGAWA Kuniyoshi		TOKUNAGA Akio		UEKIDA Jun DOI Kouki	<ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with health impairments (including psychogenic disorders)</li> </ul>
Intellectual disabilities/ Developmental Disabilities Group	○Research unit on special needs education of children with intellectual disabilities (Intellectual Disabilities Unit)	INOUE Masashi	KUDO Takeshi INOKO Hidetaro			INOUE Masashi KUDO Takeshi	INOKO Hidetaro OSAKI Hirofumi	OZAWA Michimasa KIKUCHI Kazufumi		WAKUI Megumi	<ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with intellectual disabilities</li> </ul>
	○Research unit on special needs education of children with autism (Autism Unit)	HIROSE Yumiko	OZAWA Michimasa	ATSUMI Yoshikata OOUCHI Susumu		INOUE Masashi HIROSE Yumiko SASAMORI Hiroki	INOKO Hidetaro OSHIRO Masayuki OZAWA Michimasa	KIKUCHI Kazufumi		YANAGISAWA Akiko	<ul style="list-style-type: none"> <li>Characteristics of disabilities of children with autism</li> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with autism</li> </ul>
	○Research unit on special needs education of children with developmental disabilities (LD, ADHD, high functioning autism (HFA), etc.) or children with emotional disturbance (Developmental Disabilities and Emotional disturbances Unit)	SASAMORI Hiroki	ATSUMI Yoshikata HIROSE Yumiko	ATSUMI Yoshikata TSUGE Masayoshi		UMEDA Mari KOBAYASHI Michiyo SASAMORI Hiroki HIROSE Yumiko FUJII Shigeki		OSAKI Hirofumi OSHIRO Masayuki KAIZU Akiko KUBOYAMA Shigeki TAMAKI Munehisa		ITO Yumi UEKIDA Jun YANAGISAWA Akiko WAKUI Megumi	<ul style="list-style-type: none"> <li>Characteristics of the disabilities of children whose general intellectual development is not delayed but who have peculiar disabilities (LD, ADHD, High Functioning Autism (HFA), etc.)</li> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with developmental disabilities (LD, ADHD, HFA, etc.)</li> <li>Curriculum, content of education, and teaching methods for children with emotional disturbance</li> </ul>



●平成22年度研究一覧

研究種別	課題名	研究班	研究代表者	期間
重点推進研究	特別支援学校における新学習指導要領に基づいた教育課程編成の在り方に関する実際研究	推進班	柘植 雅義	平成22~23年度
	特別支援学校(知的障害)高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究	知的班	井上 昌士	平成22~23年度
	特別支援学級における自閉症のある児童生徒の「カリキュラムアセスメント」(仮称)に基づいた教育課程編成に関する実証的研究	自閉症班	廣瀬由美子	平成22~23年度
	発達障害のある子どもへの学校教育における支援の在り方に関する実際研究 - 幼児教育から後期中等教育への支援の連続性 -	発達・情緒班	笹森 洋樹	平成22~23年度
専門研究A	障害のある子どもの今後の教育についての基礎研究 - 日本社会に即したインクルーシブ教育の実践にむけて -	在り方班	藤本 裕人	平成21~22年度
	特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究 - 活用のための方法試案の実証と普及を中心に -	在り方班	徳永亜希雄	平成22~23年度
	特別支援学校の特性を踏まえた学校評価の在り方に関する実際研究	推進班	大内 進	平成21~22年度
	特別支援学校における支援システムの充実に向けた総合的研究 - 特別支援教育体制の取組の状況とその改善に向けた課題に関する調査研究 -	推進班	松村 勳由	平成22年度
	障害のある子どもへの一貫した支援システムに関する研究 - 早期から社会参加に至る発達障害支援の確立と検証 -	推進班	渥美 義賢	平成22年度
	特別支援学校高等部(専攻科)における進路指導・職業教育支援プログラムの開発	移行支援班	原田 公人	平成22~23年度
	障害の重度化と多様化に対応するアシスティブ・テクノロジーの活用と評価に関する研究	情報・支援機器班	棟方 哲弥	平成21~22年度
専門研究B	特別支援学校における障害の重複した子ども一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究 - 現状把握と重複障害教育の枠組の検討 -	重複班	大崎 博史	平成21~22年度
	小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する指導・支援に関する研究	視覚班	田中 良広	平成22年度
	軽度・中等度難聴児に対する指導と支援の在り方に関する研究	聴覚班	原田 公人	平成22~23年度
	言語障害のある子どもの通常の学級における障害特性に応じた指導・支援の内容・方法の開発に関する研究 - 通常の学級と通級指導教室の連携を通して -	言語班	牧野 泰美	平成22~23年度
	肢体不自由のある児童生徒の障害特性に配慮した教科指導に関する研究 - 表現する力の育成をめざして -	肢体不自由班	長沼 俊夫	平成22~23年度
	特別支援学校(病弱)のセンター的機能を活用した病弱の子ども支援ネットワークの形成と情報の共有化に関する研究	病弱班	西牧 謙吾	平成22~23年度
	発達障害と情緒障害の関連と教育的支援に関する研究 - 二次障害の予防的対応を中心に -	発達・情緒班	藤井 茂樹	平成22~23年度
	障害のある子どもの学習言語に関する基礎的研究 - 授業で使用される教科書及び指導者が使用する言語の把握 -	-	藤本 裕人	平成21~22年度
共同研究	障害のある子どもを支える地域づくりのための関係機関の連携に関する実際研究	推進班	小澤 至賢	平成22~23年度
	無色透明な紫外線硬化樹脂インクを用いた触知図・点字に関する製作システムの開発とそれらの触読性評価に関する研究	情報・支援機器班、視覚班	土井 幸輝	平成21~22年度
	全盲児童の図形表象の評価に関する実際研究	視覚班	大内 進	平成21~22年度
	発達障害のある子どもの教育情報の収集と提供に関する実際研究 - 情報共有・連携システムの構築と連携した情報提供の試行と評価 -	発達・情緒班	渥美 義賢	平成22~23年度

●研究区分・研究種別

研究区分	研究種別	研究の性質
基幹研究	重点推進研究	専門研究の内、重要性及び緊急性という観点から重点的に推進する研究。
	専門研究A	障害種別によらない研究で、特別支援教育推進のための横断的研究、障害種別の共通テーマの研究など。主として、特別支援教育研究系や重複障害研究系の研究班が実施母体となって実施。
	専門研究B	障害種別等に対応した専門的研究。主として、重複障害研究系、感覚障害・言語障害研究系、運動障害・健康障害研究系、知的障害・発達障害研究系の各班が実施母体となって実施。
	専門研究C	業務上必要な研究で、かつ全所的に取り組むことが求められる研究。関係業務部の職員を中心に、他の職員の協力も得て行われる研究。
	専門研究D	上に該当しない先端的、試験的、萌芽的研究。
外部資金研究	科研費等研究	科学研究費補助金等の外部資金を獲得して行う研究。
受託研究	受託研究	外部から委託を受けて行う研究。
共同研究	共同研究	本研究所において実施されている実際の・総合的研究と大学や大学共同利用機関、医療・福祉機関等において実施されている基礎的・理論的な研究を融合する研究。
調査研究	調査研究	企画部、教育支援部、教育研修情報部、教育相談部、発達障害教育情報センターの業務遂行に必要な調査及び研究。

●FY 2010 Research Projects

Research Category	Research Title	Research Unit	Principal Researcher	Period
Key Research	Practical Study on Curriculum Development based on the New National Curriculum Guidelines at Schools for Special Needs Education	Promoting Unit	TSUGE Masayoshi	FY 2010-2011
	Study on Curriculum for Children with Mild Intellectual Disabilities Who Belong to an Upper Secondary Department of a Special Needs School (Intellectual Disabilities)	Intellectual Disabilities Unit	INOUE Masashi	FY 2010-2011
	Experimental Study on Curriculum Development based on "Curriculum Assessment" (Tentative Title) of Students with Autism in Classes for Special Needs Education	Autism Unit	HIROSE Yumiko	FY 2010-2011
	Practical Study on Support in School Education for Children with Developmental Disabilities - Continuity of support from early childhood education through upper secondary school education -	Developmental Disabilities and Emotional disturbances Unit	SASAMORI Hiroki	FY 2010-2011
	Basic Research on the Future Education of Children with Disabilities - For the Practice of Inclusive Educational in Conformity with Japanese Society -	Perspective Unit	FUJIMOTO Hiroto	FY 2009-2010
Specialized Research A	Study on the Use of ICF-CY in Special Needs Education - With a focus on demonstration and dissemination of proposed methods for the use of ICF-CY -	Perspective Unit	TOKUNAGA Akio	FY 2010-2011
	Experimental study on effective school evaluation based on specific characteristics of schools for special needs education	Promoting Unit	OOUCHI Susumu	FY 2009-2010
	Comprehensive Study for Improvement of Support Systems at Schools for Special Needs Education - Survey and research on use and improvement of systems in special needs education -	Promoting Unit	MATSUMURA Kanyu	FY 2010
	Study on an Integrated Support System for Children with Disabilities - Establishment and verification of support for children with developmental disabilities from an earlier stage to social participation -	Promoting Unit	ATSUMI Yoshikata	FY 2010
	Development of Support Programs for Career Guidance and Vocational Education Provided at Upper Secondary Departments of Schools for Special Needs Education (Advanced Courses)	Transition Support Unit	HARADA Kimihito	FY 2010-2011
	Implementation and evaluation study on the use of assistive technology (AT) in the classroom for responding to diverse needs of children with disabilities	ICT and Assistive Technology Unit	MUNEKATA Tetsuya	FY 2009-2010
	Study on Education to Meet the Individual Needs of Children with Multiple Disabilities in Schools for Special Needs Education - Investigating the current state and examining the educational framework for children with multiple disabilities -	Multiple Disabilities Unit	OSAKI Hirofumi	FY 2009-2010
	Study on Guidance and Support for Students with Visual Impairment Enrolled in Elementary and Lower Secondary Schools	Visual Impairments Unit	TANAKA Yoshihiro	FY 2010
Specialized Research B	Study on Guidance and Support for Children with Mild or Moderate Hearing Impairment	Deaf and Hard of Hearing Unit	HARADA Kimihito	FY 2010-2011
	Study on Development of the Contents and Methods of Guidance and Support in Regular Classes for Children with Speech and Language Disorders according to the Characteristics of the Disabilities - Through collaboration between regular classes and special needs services in resource rooms -	Speech and Language Disorders	MAKINO Yasumi	FY 2010-2011
	Study on Subject Teaching for Students with Physical/motor Disabilities Considering the Characteristics of the Disabilities - To develop the ability to express -	Physical/Motor Disabilities Unit	NAGANUMA Toshio	FY 2010-2011
	Study on Creating Support Networks for Sick Children and Information-sharing Using the Functions of Schools for Special Needs Education (for Health Impairments) as a Resource Center	Health Impairments Unit	NISHIMAKI Kengo	FY 2010-2011
	Study on Relationship between Developmental Disabilities and Emotional Disturbance and Educational Support - Focusing on measures to prevent secondary disabilities -	Developmental Disabilities and Emotional disturbances Unit	FUJII Shigeki	FY 2010-2011
	Basic Research on Language Used in Learning by Children with Disabilities - Comprehending the languages used in textbooks and by teachers -	-	FUJIMOTO Hiroto	FY 2009-2010
	Practical Study on Collaboration among Related Organizations Aiming for Community Development to Support Children with Disabilities	Promoting Unit	OZAWA Michimasa	FY 2010-2011
Collaborative Research	Study on the Development of a Tactile Graphics and Braille Production System Using Clear and Colorless UV Curable Resin Ink and an Evaluation of its Readability	ICT and Assistive Technology Unit, Visual Impairments Unit	DOI Kouki	FY 2009-2010
	Practical Study on the Evaluation of Figure Tracing by Totally Blind Children	Visual Impairments Unit	OOUCHI Susumu	FY 2009-2010
	Practical Study on the Collection and Provision of Information on Special Needs Education of Children with Developmental Disabilities - Establishment of an information-sharing and collaboration system, and evaluation of information services -	Developmental Disabilities and Emotional disturbances Unit	ATSUMI Yoshikata	FY 2010-2011

●Research Groups and Research Categories

Research Group	Research Categories	Characteristics of Researches
Core Research	Key Research	Specialized studies which were selected from the viewpoint of their importance and urgency and which should be promoted intensively.
	Specialized Research A	Studies which are not based on types of disabilities and include cross-sectional studies designed to promote special needs education and studies on themes common to different types of disabilities. These studies are conducted primarily by the special needs education research team and the multiple disabilities research team.
	Specialized Research B	Specialized studies by type of disabilities, conducted primarily by the multiple disabilities research team, sensory disabilities and speech/language disabilities research team, motor difficulties and health impairments research team, and intellectual and development disabilities research team.
	Specialized Research C	Studies which are needed for educational duties and require institute-wide efforts. These studies are conducted primarily by personnel from concerned departments in cooperation with personnel of other departments.
	Specialized Research D	Leading-edge, experimental, and embryonic studies not included in the above.
Externally Funded Research	Grant-in-Aid for Scientific Researches	Studies funded by external funds such as grant-in-aid scientific research.
Entrusted Research	Entrusted Research	Studies entrusted by an external organization.
Collaborative Research	Collaborative Research	Research untied NISE' s practical, general research and University or other medical or welfare institutes' basic and academic research.
Survey and Investigation Projects	Survey and Investigation Projects	Department of Policy and Planning, Educational Support, Teacher Training and Information, Counseling and Consultation for Persons with Special Needs and Information Center of Education for the persons with Developmental Disabilities conduct various surveys and studies needed to perform duties in addition to the special studies mentioned above.



## ■ 基幹研究

## ● 重点推進研究

1. 特別支援学校における新学習指導要領に基づいた教育課程編成の在り方に関する実際研究  
(平成22～23年度)

研究代表者 柘植雅義  
 研究分担者 柳澤亜希子, 原田公人, 猪子秀太郎, 長沼俊夫, 井上昌士  
 研究協力者 滝川国芳, 大内 進

## 概要:

改訂された新学習指導要領は、社会の変化や幼児児童生徒の障害の重度・重複化、多様化などに対応し障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援を充実するという観点から改善が図られています。

教育課程については、これまでも多様化する障害種等の状態に応じた対応が進められてきていますが、新学習指導要領を踏まえた編成にあたっては、障害種や障害の程度等へのきめ細やかな対応や授業時間数の柔軟な対応等のさまざまな面でのより一層の工夫や配慮が必要となります。こうした課題は特別支援学校長会の調査でも示されてきています。

このような観点から本研究では、特別支援学校における新学習指導要領の下での幼児児童生徒個々のニーズに対応した教育課程編成の在り方について検討します。今回の学習指導要領改訂に関連して、幼児児童生徒の実態を踏まえた望ましい編成、授業時数や単位時間への柔軟な対応、自立活動の編成、個別の指導計画や個別の教育支援計画と連続性や関係性、交流及び共同学習に係わる教育課程上の位置づけ等について、平成22年度における状況を実態調査により把握した上で、研究協力校における実践を通して、その望ましい在り方について考究していきます。

本研究の成果は、特別支援学校の教育課程編成における資料としての活用が期待されます。

2. 特別支援学校（知的障害）高等部における軽度知的障害のある生徒に対する教育課程に関する研究  
(平成22～23年度)

研究代表者 井上昌士  
 研究分担者 猪子秀太郎, 工藤傑史, 小澤至賢, 菊地一文, 涌井 恵, 大崎博史  
 研究研修員 立田祐子（北海道星置養護学校）、仁科仁美（静岡県立静岡北特別支援学校）

## 概要:

本研究では、平成21年度に「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に在籍する児童生徒の増加の実態と教育的対応に関する研究」に取り組みました。近年の特別支援学校（知的障害）に在籍する児童生徒の増加は多くの学校や自治体において喫緊の課題であり、特に高等部においては増加が著しく、その中でも軽度知的障害のある生徒が増え、高等部全体の中で占めるその割合も多くなってきていることが明らかになりました。また、少数ながらも中学校通常学級から入学するケースがあることも明らかになりました。そのような現状の中で、卒業後を見据え、社会的及び職業的自立の促進を踏まえた軽度知的障害のある生徒の教育的対応の検討が求められています。

そこで本研究では、知的障害特別支援学校高等部の生徒の増加の背景やその実態及び想定される要因、さらにキャリア教育の視点等を踏まえ、知的障害特別支援学校高等部における軽度知的障害の生徒に対する教育課程についての知見を提供することを目的とします。また、高等学校の特別支援教育の充実強化のための知見を提供することも目的としています。

具体的には、全国特別支援学校校長会や都道府県教育センター等との連携をとりながら、教育課程編成や具体的な指導体制、各教科や領域・教科を合わせた指導等の指導内容、それに伴う専門性、中学校との連携・接続の在り方、社会的及び職業的自立へ向けた取組等を実態調査及び研究協力機関でのモデル実践の事例等を通して検討し整理していきます。

実態調査や研究協力機関等での実践事例を通して、軽度知的障害のある生徒に対する教育課程を学校の特徴や地域性などからタイプ別に分類し、そのモデル案や専門的対応のポイント等を示すことで、各校における教育課程編成に役立つことができると考えます。また、それらの内容を、特別支援教育担当者だけでなく、高等学校特別支援教育担当者にも分かるように、その現状及び背景、課題等を踏まえて報告書等で示していくことにより、高等学校における特別支援教育体制の充実強化に寄与していくことも考えられます。

## ■ Core Research

## ● Key Research

1. Practical study on Curriculum Development based on the New National Curriculum Guidelines at Schools for Special Needs Education  
(FY 2010-2011)

Principal researcher TSUGE Masayoshi  
 Co-researchers YANAGISAWA Akiko, HARADA Kimihito, INOKO Hidetaro, NAGANUMA Toshio, INOUE Masashi  
 Research collaborator(s) TAKIGAWA Kuniyoshi, OOUCHI Susumu

## Outline:

The revised New National Curriculum Guidelines include improvements in response to severe, multiple and diverse disabilities of children as well as social changes. The revision is also intended to provide appropriate education and necessary support for children with disabilities based on individual educational needs.

The curriculum has been modified to respond to diverse disabilities. The New National Curriculum Guidelines, however, require more innovative curricula to be prepared, with consideration of various aspects such as the types and degrees of disabilities and flexibility as to the number of classes. This requirement was reflected in a survey conducted by an association of principals of schools for special needs education.

In response to the revised guidelines, this study will examine curriculum development at schools for special needs education according to the individual needs of children based on the New National Curriculum Guidelines. In relation to the recent revision of the guidelines, this study will examine how curricula should be formed to suit the actual conditions of children, flexibility as to the numbers of classes and credits, activities to promote independence, continuity and relationship between individualized teaching plans and individualized education support plans, and interactions and collaborative learning in curricula, by conducting surveys. The study will then seek to develop desirable curricula through practice at schools cooperating with this research project.

The results of this study is expected to be utilized as a material for designing curricula at schools for special needs education.

2. Study on Curriculum for Children with Mild Intellectual Disabilities Who Belong to an Upper Secondary Department of a Special Needs School (Intellectual Disabilities)  
(FY 2010-2011)

Principal researcher INOUE Masashi  
 Co-researchers INOKO Hidetaro, KUDO Takeshi, OZAWA Michimasa, KIKUCHI Kazufumi, WAKUI Megumi, OSAKI Hirofumi  
 Research trainees TATSUTA Yuko (Hokkaido Hoshioki School for Children with Disabilities), NISHINA Hitomi (Shizuoka Prefecture, Shizuoka Kita Special Needs School)

## Outline:

NISE conducted "Research Concerning that Current Increase in Students Enrolled in Schools for Special Needs Education Educating Children with Intellectual Disabilities and the Corresponding Educational Response to This Situation" in FY 2009. The recent increase of students enrolled in schools for special needs education (for intellectual disabilities) is an urgent issue for many schools and municipalities. In particular, upper secondary departments are facing a substantial increase, particularly in the number and proportion of children with mild intellectual disabilities, according to the research. The research also revealed that there were students with mild intellectual disabilities who enter upper secondary departments of special needs schools after graduating from regular classes of lower secondary schools, although the number of such students was small. In view of this situation, it is necessary to consider educational measures for children with mild intellectual disabilities in order to encourage their social and vocational independence after graduation.

Based on these results, this study will examine the curriculum for children with mild intellectual disabilities enrolled in upper secondary departments of special needs schools for intellectual disabilities, considering the background and situation of the increase in the number of students at upper secondary departments of special needs schools for intellectual disabilities, probable causes of the increase, and career education. The study will also examine measures to improve special needs education at upper secondary schools.

Specifically, the study will examine and summarize curriculum development, specific teaching systems, teaching content of each subject, content of instruction combining learning areas and subjects, required expertise, ideal states of collaboration and interface with lower secondary schools, and efforts for social and vocational independence, through surveys and model practices at institutions assisting this research project, in cooperation with National Associations of Schools for Special Needs Education and prefectural education centers.

The study will classify curricula for children with mild intellectual disabilities based on the characteristics of schools and communities and present models and relevant specialized measures, through surveys and practical examples at cooperating institutions, thus contributing to curriculum development suitable at each school.

The findings in the study will be compiled into a report in which we will include the details of the current state, background and issues to be resolved, so that the report can be useful for the persons in charge of special needs education as well as persons in charge of special needs education at upper secondary schools. This can also help to improve the system of special needs education at upper secondary schools.



3. 特別支援学級における自閉症のある児童生徒の「カリキュラムアセスメント」(仮称) に基づいた教育課程編成に関する実証的研究 (平成22~23年度)

研究代表者 廣瀬由美子  
 研究分担者 小澤至賢, 井上昌士, 笹森洋樹, 大城政之, 菊地一文, 猪子秀太郎, 柳澤亜希子, 渥美義賢  
 研究研修員 北澤英和 (長野県安曇養護学校)

**概要:**  
 現行の特別支援学級では、在籍している自閉症のある児童生徒の実態が多岐にわたっており、また、他の障害や異学年の児童生徒が混在することから、各学校において教育課程を編成する際、自閉症の特性に応じた教育課程の編成の難しさが課題となっています。  
 そこで、平成20~21年度の研究では、知的障害特別支援学級における自閉症教育の実態調査、研究協力校の特別支援学級における自閉症教育の実態調査を行うとともに、特別支援学級の教育課程の編成、自立活動を中心とした指導内容及び指導方法の在り方について実践的研究を行いました。このような研究結果を受けて、特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒を念頭に、4種類の「教育課程編成案」を整理し、仮説案として提案するに至っています。  
 しかし、就学の基準からは、特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒は、仮説案のAタイプ(知的発達が標準)とBタイプ(知的発達が軽度)であることや、新たに名称を変えた自閉症・情緒障害特別支援学級では、自閉症のある児童生徒が在籍の半数以上を占めていることを考えると、本研究においては、自閉症・情緒障害特別支援学級における自閉症教育の在り方を検討するものとしています。実際には、自閉症・情緒障害特別支援学級を研究機関として、AタイプとBタイプに該当する自閉症のある児童生徒を想定したカリキュラムアセスメントシート(仮称)の作成を試みることに、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の事例研究として、その障害特性や自立活動を活かした教科教育の在り方についても検討していく予定です。  
 本研究を通じて、特別支援学級における自閉症のある児童生徒の教育課程の編成の改善、実際の指導の充実の推進に寄与できるものと考えています。

4. 発達障害のある子どもへの学校教育における支援の在り方に関する実際研究 - 幼児教育から後期中等教育への支援の連続性 - (平成22~23年度)

研究代表者 笹森洋樹  
 研究分担者 柘植雅義, 小松幸恵, 久保山茂樹, 廣瀬由美子, 玉木宗久, 涌井 恵, 小林倫代, 藤井茂樹, 渥美義賢, 大城政之, 海津亜希子, 伊藤由美, 梅田真理  
 研究研修員 飯野茂八 (青森県立弘前第二養護学校)

**概要:**  
 発達障害の障害特性は生涯にわたりその基本的な症状は持ち続けることが特徴です。幼児期から学童期、思春期・青年期そして成人期と年齢段階によりその状態像は変容していきます。学校教育においては、幼児教育から高等教育まで教育環境が違い、求められる適応能力についても大きく異なってきます。教育的支援の在り方については、その年齢や発達段階に応じて長期的、縦断的な展望を持ち、支援の連続性を視野に入れて考えていく必要があります。  
 本研究では、長期的、縦断的な視点を念頭に置きつつ、小学校、中学校の義務教育段階における教育的支援を中心に、幼児教育から後期中等教育までの支援の連続性に焦点をあてて、支援の充実に向けてのモデルを学校現場に提案することを目的としています。  
 義務教育段階では研究指定校等を中心に、授業改善や学級経営の工夫、多様な教育形態の運用、支援員や通級の活用、個別的教育支援計画の作成等、少しずつ先進的な実践例が報告されてきています。これらの学校での実践及び海外も含めた関連する先行研究等について、その教育的効果及び支援の連続性という視点から内容を整理し、年齢や発達段階に応じた気づきから具体的な支援に至る効果的なモデルを検討していきます。  
 研究成果は、発達障害についての早期からの一貫した教育的支援の在り方等の課題解決に寄与できると考えています。



研究班の定例研究会の様子  
 Regular workshop held by the Research Unit

3. Experimental Study on Curriculum Development based on "Curriculum Assessment" (Tentative Title) of Students with Autism in Classes for Special Needs Education (FY 2010-2011)

Principal researcher HIROSE Yumiko  
 Co-researchers OZAWA Michimasa, INOUE Masashi, SASAMORI Hiroki, OSHIRO Masayuki, KIKUCHI Kazufumi, INOKO Hidetaro, YANAGISAWA Akiko, ATSUMI Yoshikata  
 Research trainees KITAZAWA Hidekazu (Nagano Prefectural Azumi School for Children with Disabilities)

**Outline:**  
 The conditions of students with autism in classes for special needs education are diverse: students with varying disabilities and grades are studying in the same classes, which makes it difficult to develop curricula according to the characteristics of autism.  
 The FY 2008-2009 study conducted a survey of autism education in classes for children with intellectual disabilities and a survey of autism education in classes for special needs education at cooperating schools. Practical research was also conducted on curriculum development of classes for special needs education and ideal states of teaching contents and methodology with emphasis on promoting independence. Based on the results of these surveys and research, four types of "curriculum development plans" were summarized and tentatively proposed for students with autism enrolled in classes for special needs education.  
 This study will examine autism education in classes for special needs education for autism and emotional disturbance. It is because students with autism who are in classes for special needs education belong to the tentatively proposed Type A (standard intellectual development) or Type B (mild intellectual development) according to the school attendance criteria and students with autism account for more than half of students enrolled in renamed classes for special needs education for autism and emotional disturbance. Actually, the study attempt to produce curriculum assessment sheet (tentative name) assuming students with autism who fall under Type A or B in classes for special needs education for autism and emotional disturbance, as well as examine subject teaching using characteristics of the disabilities and activities to promote independence based on case studies of students with autism enrolled in classes for special needs education for autism and emotional disturbance.  
 This study will help improve curriculum development and practical teaching for students with autism in classes for special needs education.

4. Practical Study on Support in School Education for Children with Developmental Disabilities -Continuity of support from early childhood education through upper secondary school education- (FY 2010-2011)

Principal researcher SASAMORI Hiroki  
 Co-researchers TSUGE Masayoshi, KOMATSU Yukie, KUBOYAMA Shigeki, HIROSE Yumiko, TAMAKI Munehisa, WAKUI Megumi, KOBAYASHI Michiyo, FUJII Shigeki, ATSUMI Yoshikata, OSHIRO Masayuki, KAIZU Akiko, ITO Yumi, UMEDA Mari  
 Research trainees IINO Shigehachi (Aomori Prefectural Hirosaki Daini School for Children with Disabilities)

**Outline:**  
 One characteristic of developmental disabilities is that the basic symptoms last throughout life. The states change with age, from infancy to adulthood through elementary school age, early adolescence, and adolescence. The school education environment varies from early childhood education to tertiary education, with substantial differences in required adaptability. Therefore, educational support needs to be provided with a long-term longitudinal vision according to age and development phase to ensure continuity of support.  
 Taking a long-term longitudinal vision in consideration, this study will place primary importance on educational support in compulsory education of elementary and lower secondary schools, and propose to schools a model to improve support focusing on the continuity of educational support from early childhood education through education at upper secondary schools.  
 Advanced practices in compulsory education have gradually been reported from designated schools involved in the study. These practices include educational improvement, innovative forms of class management, use of diverse education models, use of supporters and resource rooms, and production of individualized education support plans. The study will summarize practices at these schools and the results of past studies including overseas studies in terms of educational effects and continuity of support, and develop effective models to provide specific support based on findings according to the age and development phase of students.  
 The results of this study will contribute to resolve issues such as a long-term longitudinal educational support for children with developmental disabilities from an earlier stage of life.



## ●専門研究A

1. 障害のある子どもの今後の教育についての基礎研究  
—日本社会に即したインクルーシブ教育の実践にむけて— (平成21～22年度)

研究代表者 藤本裕人  
研究分担者 中澤恵江, 田中良広, 廣瀬由美子, 滝川国芳, 齊藤由美子, 藤井茂樹, 横尾 俊, 土井幸輝, 西牧謙吾, 笹本 健, 工藤傑史

## 概要:

本研究は、日本社会に即したインクルーシブ教育の実践方略を明らかにすることに重点を置くものです。我が国では、すべての児童生徒を対象とした義務教育体制が整っています。そしてその教育の内容・目標は学習指導要領に基づき実施されています。したがって、我が国において、障害のある子どものインクルーシブ教育の研究では「義務教育を制度的に享受できない」ことに関する課題は、日本には該当しないと総括したうえで、今後のインクルーシブ教育の実践に向けた研究課題について、研究に取り組みます。

1. 通常の教育の中での障害児の教育形態の在り様の検討
2. 通常の教育の中で学習する障害のある子どもへの教育課程・評価等の指導内容面の検討
3. インクルーシブ教育の理解啓発と教育制度全体との整合性の検証 (国外・国内の先進事例)

2. 特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究  
—活用のための方法試案の実証と普及を中心に— (平成22～23年度)

研究代表者 徳永亜希雄  
研究分担者 松村勘由, 金子 健, 菊地一文  
研究協力者 小松幸恵, 大内 進, 横尾 俊, 大城政之  
研究研修員 溝端英二 (和歌山県立紀伊コスモス支援学校)

## 概要:

WHO (世界保健機関) のICF (国際生活機能分類) については、「特別支援学校学習指導要領解説 (2009)」でその活用の必要性が言及され、ICF-CY (同児童版) の日本語訳も同年に刊行されました。本研究所の調査 (2009) では全国の特別支援学校の約21%において何らかの形でICF又はICF-CYが活用されていることが示されました。その一方で活用のための方法の検討の必要性等も指摘されていることを踏まえ、本研究所では特別支援教育実践の改善・充実に資するICF-CY活用のための方法試案とそのためのツールの開発を進めてきました。本研究は、同試案等の実証を行い、より活用しやすい方法の提案をするとともに、幅広い普及を図ることを目的として実施します。

上記の活用方法試案とツールについて、ICF又はICF-CYを活用していると回答のあった特別支援学校等に協力を依頼し、実地調査及び質問紙を通して実証を行い、その結果を踏まえて試案等の改善を図ります。改善した試案についてさらに多くの特別支援学校や小・中学校等で実証を重ね、より使いやすい方法等の開発を行います。なお、本研究におけるICF-CY活用とは、学校のみならず、本人・家族・関係職種等の連携のもとでの指導と支援における活用もその範囲として想定しています。

実証された方法を提案することを通して、上記の調査結果の中で指摘された、ICF-CY活用の方法に関する学校現場のニーズに応えることができます。併せて、学校内のみならず、関係者間の連携のもとでの指導と支援を支えるツールである個別の教育支援計画の改善・充実に寄与できると考えられます。なお、得られた研究成果は成果報告書や本研究所のWebサイトを通して公開するなど、幅広く普及を行います。

## 3. 特別支援学校の特性を踏まえた学校評価の在り方に関する実際研究 (平成21～22年度)

研究代表者 大内 進  
研究分担者 中村 均, 小田侯朗, 金森克浩, 小松幸恵, 牧野泰美, 小澤至賢

## 概要:

特別支援学校の特性を踏まえた学校評価の在り方について、平成20年度にスタートアップ研究として、全国調査を実施しました。この調査で、特別支援学校における学校評価の実施状況や実施内容に関する実態を把握しました。特別支援学校の学校評価の在り方については、文部科学省が作成した「学校評価ガイドライン [改訂]」においても、その特性に対応した取り組みの必要性が示されています。本研究では、20年度の調査結果を踏まえて、特別支援学校における学校評価の推進に寄与するために、以下のような内容に関して実際的な研究を進めます。

1. 特別支援学校の特性を踏まえた評価内容の策定、組織的な取組、評価の公表、活用等の現状について更に精査し、課題点や問題点を明らかにすると共に今後の改善・発展の方向について整理します。
2. 先進的な取組をしている特別支援学校の協力を得て、特別支援学校の運営の改善と発展に寄与する学校評価の在り方について事例を通して検討します。

## ●Specialized Research A

1. Basic Research on the Future Education of Children with Disabilities  
—For the Practice of Inclusive Educational in Conformity with Japanese Society— (FY 2009-2010)

Principal researcher FUJIMOTO Hiroto  
Co-researchers NAKAZAWA Megue, TANAKA Yoshihiro, HIROSE Yumiko, TAKIGAWA Kuniyoshi, SAITO Yumiko, FUJII Sigeki, YOKOO Shun, DOI Kouki, NISHIMAKI Kengo, SASAMOTO Ken, KUDO Takeshi

## Outline:

This research places primary importance on shedding light upon practical strategies for inclusive education that is in conformity with Japanese society. Japan has prepared a system for compulsory education that has targeted all school-age children. Furthermore, the country implements the contents and goals of this education based on National Curriculum Guidelines. Therefore, it is our general conclusion that the issue concerning "institutionally not being given the opportunity to enjoy compulsory education" does not apply in Japan as regards themes for research on inclusive education for children with disabilities. Consequently, we will be conducting research in areas that look towards the practice of inclusive education hereafter.

1. The study of the ideal forms of education for children with disabilities in regular education
2. The study of the instructional content aspect of curricula, assessments, etc. for children with disabilities attending regular education
3. The verification of conformity of educational efforts for the understanding of inclusive education with the educational systems as a whole (advanced foreign and domestic case studies)

2. Study on the Use of ICF-CY in Special Needs Education  
—With a focus on demonstration and dissemination of proposed methods for the use of ICF-CY— (FY 2010-2011)

Principal researcher TOKUNAGA Akio  
Co-researchers MATSUMURA Kanyu, KANEKO Takeshi, KIKUCHI Kazufumi  
Research collaborator(s) KOMATSU Sachie, OOUCHI Susumu, YOKOO Shun, OSHIRO Masayuki  
Research trainees MIZOBATA Eiji (Wakayama Prefecture, Kii Cosmos School for Special Needs Education)

## Outline:

The description of the National Curriculum Guidelines for Schools for Special Needs Education (2009) noted the necessity of using the ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) endorsed by the WHO (World Health Organization). A Japanese translation of the ICF-CY (Children and Youth Version) was published in the same year. According to a survey conducted by NISE in 2009, approximately 21% of schools for special needs education in Japan use the ICF or ICF-CY in some way. On the other hand, the survey also pointed out that it is necessary to study how to use the ICF or ICF-CY effectively. Based on the survey results, NISE has promoted the development of methods and tools for effectively using the ICF-CY in order to improve and develop practices in special needs education. This study will examine the proposed methods and tools, which can be used more easily, and then widely disseminate the methods and tools.

The study will request cooperation from schools for special needs education which has affirmed use of the ICF or ICF-CY in surveys, examine the effectiveness of the proposed methods and tools through field and questionnaire surveys, and try to improve the methods and tools based on survey results. The study will further examine the improved proposals at a larger number of schools for special needs education and elementary and lower secondary schools to develop better methods and tools. The study will assume that the ICF-CY will be effectively used not only at schools but also for guidance and support in cooperation with students, families, teachers, and other relevant personnel.

The study will be able to respond to schools' needs for using the ICF-CY identified in the above surveys by proposing methods and tools demonstrated in the study. In addition, the study will help improve and develop individualized educational support plans which are the major tools for guidance and support provided through cooperation among personnel as well as within schools. The results of the study will be compiled in reports and made available widely both in printed form and on the NISE website.

## 3. Experimental study on effective school evaluation based on specific characteristics of schools for special needs education (FY 2009-2010)

Principal researcher OOUCHI Susumu  
Co-researchers NAKAMURA Hitoshi, ODA Yoshiaki, KANAMORI Katsuhiko, KOMATSU Yukie, MAKINO Yasumi, OZAWA Michimasa

## Outline:

In FY 2008, a nationwide survey was conducted as the initial research to find how to best evaluate schools for special needs education based on their characteristics. The survey identified the state and details of school assessments implemented at schools for special needs education. With regard to school evaluation at schools for special needs education, the (Revised) Guidelines for School Evaluation prepared by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) stated that efforts must be made based on the characteristics accordingly. Based on the results of the FY 2008 study, this study will deal with practical matters related to the following areas in order to assist the evaluation of school for special needs education.

1. The study will closely examine the development of evaluation content based on the characteristics of schools for special needs education, and the current situation of organizational efforts, publication of evaluation results and use to clarify challenges and issues, and identify directions for improvement and development in future.
2. With the cooperation of schools for special needs education carrying out advanced efforts, case studies of school evaluation that contributes to improving and developing the operation of schools for special needs education will be studied.



#### 4. 特別支援学校における支援システムの充実にに向けた総合的研究 —特別支援教育体制の取組の状況とその改善に向けた課題に関する調査研究— (平成22年度)

研究代表者 松村勘由  
研究分担者 澤田真弓, 大崎博史, 横尾 俊, 植木田潤  
研究協力者 徳永亜希雄

##### 概要:

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育を実施するためのものであり、その趣旨からも、特別支援学校には、地域のセンターとして、特別支援教育の取組をさらに推進しつつ、様々な障害種に対応することができる体制づくりや、学校間の連携などを一層進めていくことが求められています。この特別支援学校の専門機関としての役割についての認識は深まっており、各学校で積極的な活動が展開されてきています。本研究においてもさまざまな研究に取り組んできたところです。特別支援教育をさらに推進していくためには、特別支援学校においては、その体制や地域に開かれた学校としての機能の質の向上を図っていく必要がありますが、そのためには、制度改正以降現在までの到達点を把握するとともに更なる充実にために課題点を明らかにしていくことが求められます。

この特別支援教育充実のための機能や学校での取組における質の向上を図っていくための検討課題を明らかにするという観点から、本研究では、「センター的機能の質的向上」、「特別支援教育コーディネーターの役割と専門性及びコーディネーターを支える組織体制」、「個別の教育支援計画の確立と一貫した支援体制の整備や関係機関との連携」等に焦点をあて、全国特別支援学校長会の調査結果などを踏まえて、現在の取組状況と改善のための課題に関して全国の特別支援学校を対象に質問紙法による調査を実施します。

この調査から得られた結果は公表し、今後の政策課題把握のための基礎資料として活用します。

なお、本研究は「特別支援学校における支援システムの充実にに向けた総合的研究」のスタートアップ研究として位置づけられており、調査結果に基づいて、次年度以降の研究に反映させていきます。

#### 5. 障害のある子どもへの一貫した支援システムに関する研究 —早期から社会参加に至る発達障害支援の確立と検証— (平成22年度)

研究代表者 渥美義賢  
研究分担者 棟方哲弥, 久保山茂樹, 澤田真弓, 玉木宗久, 涌井 恵, 小林倫代, 藤井茂樹, 笹森洋樹, 大城政之, 海津亜希子, 伊藤由美, 梅田真理  
研究協力者 柳澤亜希子

##### 概要:

障害のある子どもへの一貫した支援システムは、本来胎生期から成人期を経て老年期に至るまで検討されるべきものですが、教育の面から考えると、幼少児期から高等教育及び就労に至る時期が中心となります。これまで、本研究では、発達障害に関しては、平成18～19年度のプロジェク研究として就学前の早期支援について、平成20～21年度の専門研究Aとして後期中等教育についての総合的研究を行ってきています。

本研究は、単年度の研究として、これまでの研究で蓄積したモデル地域での実践事例を詳細に分析し、集大成しようとするものです。就学前の早期から小・中・高等学校段階を経て高等教育や就労等の社会参加に至るまでの発達障害支援の在り方を精査することにより、今後わが国において達成することが望まれる総合的な発達障害支援システムを明らかにすることをめざします。このような長期的な支援システムを検討する場合には、現在及び今後実現される支援システムの検証も重要と考えられるので、これも視野に入れて研究を推進します。

総合的な発達障害支援については、文部科学省において厚生労働省と連携した事業を行っており、本研究は喫緊の課題となっている行政的な施策に対応しています。

#### 6. 特別支援学校高等部（専攻科）における進路指導・職業教育支援プログラムの開発 (平成22～23年度)

研究代表者 原田公人  
研究分担者 柳澤亜希子, 工藤傑史, 菊地一文, 小田侯朗  
研究協力者 大内 進, 小林倫代, 笹森洋樹, 藤井茂樹, 田中良広, 梅田真理, 玉木宗久, 植木田潤

##### 概要:

障害のある児童生徒については、高等部卒業後の就職率の低下や社会福祉施設等への入所者の増加の課題が指摘されています。また、特別支援学校の新学習指導要領では、自立と社会参加を推進するための職業教育の充実に挙げられています。これを踏まえ、本研究では、専門研究A「障害のある子どもへの進路指導・職業教育の充実にに関する研究」(平成20年度～平成21年度)において、その研究成果として「進路指導・職業教育支援ツール(案)」を提案したところです。

本研究は、上記研究の発展的研究として2カ年計画で「支援ツール(案)」の実用性を検証します。具体的には、①各学校種における指導内容及び評価、②保護者支援にかかる支援内容及び配慮事項、③関係諸機関との連携内容及び課題への対応に焦点をあてた進路指導・職業教育の支援プログラムの開発を目的とします。

第1年次に、全国の特別支援学校高等部及び高等特別支援学校、専攻科を対象に、上記3つの観点について質問紙調査を実施します。合わせて特別支援学校高等部(専攻科を含む)の協力を得て、支援ツール(案)の活用の実際について情報収集を行います。2年次には、前年度までの研究を基に、特別支援学校高等部(専攻科を含む)または高等特別支援学校において、「進路指導・職業教育の支援プログラム」の開発に向けた実践研究を行います。

本プログラムは、専攻科を含む特別支援学校高等部における今日的課題である障害のある生徒の就労に関する課題解決の方向性を示し、進路指導・職業教育の充実に資することが期待できます。

#### 4. Comprehensive Study for Improvement of Support Systems at Schools for Special Needs Education —Survey and research on use and improvement of systems in special needs education— (FY 2010)

Principal researcher MATSUMURA Kanyu  
Co-researchers SAWADA Mayumi, OSAKI Hirofumi, YOKOO Shun, UEKIDA Jun  
Research collaborator(s) TOKUNAGA Akio

##### Outline:

Special needs education is designed to provide education according to the needs of individual children with disabilities. Accordingly, schools for special needs education, as community centers, need to promote efforts in special needs education, establish systems to suit various types of disabilities, and promote collaboration among schools. Awareness of the role of schools for special needs education as specialized organizations has been increasing and schools for special needs education have engaged in constructive activities. NISE has also conducted various research projects. To promote special needs education, schools for special needs education need to improve their systems and functional quality as schools that are open to communities. It is therefore necessary to clarify the progress that has been made since the special needs education system was reformed, as well as issues related that must be resolved for further improvement.

To clarify the issues in improving the functions of special needs education and the quality of efforts made by schools for special needs education, this study will focus on "improvement of the functional quality as a resource center", "roles and expertise of special needs education coordinators and organizational systems to support coordinators", and "establishment of individualized education support plans, development of integrated support systems, and collaboration with other organizations". A questionnaire survey will be conducted as part of the study, involving schools for special needs education throughout Japan to comprehend present efforts and issues in improvement, based on the results of surveys conducted by National Associations of Principals of Schools for Special Needs Education.

The results of this study will be publicized and used as basic materials for addressing future policy issues.

This study is an initial study of a more comprehensive study for improving support systems at schools for special needs education, and the results will be reflected in studies conducted from next fiscal year.

#### 5. Study on an Integrated Support System for Children with Disabilities —Establishment and verification of support for children with developmental disabilities from an earlier stage to social participation— (FY 2010)

Principal researcher ATSUMI Yoshikata  
Co-researchers MUNEKATA Tetsuya, KUBOYAMA Shigeki, SAWADA Mayumi, TAMAKI Munehisa, WAKUI Megumi, KOBAYASHI Michiyo, FUJII Sigeaki, SASAMORI Hiroki, OSHIRO Masayuki, KAIZU Akiko, ITO Yumi, UMEMA Mari  
Research collaborator(s) YANAGISAWA Akiko

##### Outline:

An integrated support system for children with disabilities should be examined, from pre-birth, through adulthood, to old age. From an educational perspective, however, the system focuses on the period from infancy to tertiary education and employment. As for developmental disabilities, NISE conducted comprehensive research on early preschool support as the FY 2006-2007 research project and comprehensive research on upper secondary school education as the FY 2008-2009 specialized research A.

This single-year study will analyze and consolidate details of practical examples from past studies conducted in model communities. The study tries to clarify a comprehensive support system for children with developmental disabilities which is desired in Japan in the future, by examining the ideal state of support for children with developmental disabilities in the process from early preschool to tertiary education and social participation including employment, through the period of elementary school and lower and upper secondary schools. The study will also verify the present support system and a system to be implemented in the future, because these are important in considering the long-term support system.

Concerning comprehensive support for children with developmental disabilities, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) collaborates with the Ministry of Health, Labor and Welfare. This study will also consider administrative measures which are urgent matters.

#### 6. Development of Support Programs for Career Guidance and Vocational Education Provided at Upper Secondary Departments of Special Needs School (Advanced Courses) (FY 2010-2011)

Principal researcher HARADA Kimihito  
Co-researchers YANAGISAWA Akiko, KUDO Takeshi, KIKUCHI Kazufumi, ODA Yoshiaki  
Research collaborator(s) OUCHI Susumu, KOBAYASHI Michiyo, SASAMORI Hiroki, FUJII Sigeaki, TANAKA Yoshihiro, UMEMA Mari, TAMAKI Munehisa, UEKIDA Jun

##### Outline:

Regarding children with disabilities, it has been pointed out that the employment rate of children who graduated from an upper secondary department of school for special needs education has been lower than those who graduated from regular schools as well as the number of admission to social welfare facilities has increased. The New National Curriculum Guidelines for schools for special needs education has advocated to improve the vocational education that promotes the independence and social participation of persons with disabilities. Accordingly, NISE has presented "(proposed) support tool for career guidance and vocational education" as a result of specialized research A entitled "Study on improvement of career guidance and vocational education for children with disabilities" (FY 2008-2009).

This study will verify the practicality of the "(proposed) support tool" in a two-year applied study. Specifically, the study will aim to develop the support program for career guidance and vocational education with focus on (1) the details and evaluation of guidance provided by each type of school, (2) the support for guardians and matters to be considered, and (3) the collaboration with relevant agencies and countermeasures for problems.

In the first year of the study, a questionnaire survey on the above three key points will be conducted, involving upper secondary departments of schools for special needs education, upper schools for special needs education, and advanced courses throughout Japan. Information on the actual use of the (proposed) support tool will be also collected in the cooperation with upper secondary departments of special needs schools (including advanced courses). In the second year, the practical research will be conducted to develop "the support programs for career guidance and vocational education" in the upper secondary departments of school for special needs education (including advanced courses) or upper schools for special needs education, based on the results of research conducted up to the previous fiscal year.

This study program will show the direction for resolving the present-day issue of the employment of children with disabilities enrolled in upper secondary departments of schools for special needs education, including advanced courses, and help improve the career guidance and vocational education.



## 7. 障害の重度化と多様化に対応するアシスティブ・テクノロジーの活用と評価に関する研究 (平成21～22年度)

研究代表者 棟方哲弥  
研究分担者 中村 均, 金森克浩, 土井幸輝

### 概要:

本研究では、新学習指導要領による授業が行われる時期を捉えて、その課題である障害の重度化と多様化に対応するアシスティブ・テクノロジー（支援機器や教材・教具とその利用技術までを含む。）について、その選定手続きを含めた活用の方法を明らかにし、これらを利用した教育の効果について検討します。本研究期間の2カ年は、そのアプローチとして、まず、特別支援学校におけるアシスティブ・テクノロジーの活用報告を精査し、それぞれのテクノロジーが持つ「障害に基づく困難の改善・克服への効果」と「教育目標達成への効果」に分けて体系的に整理するとともに、学校における適用事例の研究を進めます。また、個別の指導計画や個別の教育支援計画において、一人一人のニーズに合わせたアシスティブ・テクノロジーを決定するための手続きを提案します。

## ●専門研究B

### 1. 特別支援学校における障害の重複した子ども一人一人の教育的ニーズに応じる教育の在り方に関する研究 –現状把握と重複障害教育の枠組の検討– (平成21～22年度)

研究代表者 大崎博史  
研究分担者 齊藤由美子, 松村勘由, 笹本 健  
研究協力者 横尾 俊, 井上昌士, 小田侯朗, 小林倫代, 田中良広, 笹森洋樹, 長沼俊夫, 西牧謙吾, 廣瀬由美子

### 概要:

本研究は、特別支援学校に在籍する障害の重複した（複数の種類の障害を併せ有する）児童生徒の教育実践において、一人一人の教育的ニーズに対応する教育内容の充実をはかるための方策等についての現状や課題をアンケート調査やインタビュー調査で明らかにし、今後の我が国の重複障害教育の在り方について検討するとともに、重複障害教育研究の研究の在り方の検討に資するための知見を提供するための研究です。

具体的には、以下の諸点について調査研究で明らかにしようと考えています。

特別支援学校に在籍する障害の重複した（複数の種類の障害を併せ有する）児童生徒の

1. 教育課程について
2. 指導内容や方法について
3. 指導体制について
4. 児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応する教育を行う上での課題について
5. 各障害種の知見を生かすための工夫等について

上記1～5の調査結果を通して、特別支援学校に在籍する障害の重複した（複数の種類の障害を併せ有する）児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応するための方策等について、その現状や課題を明らかにし、今後の特別支援学校における一人一人の教育的ニーズに対応する教育内容の充実を図るための方策について検討します。

### 2. 小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する指導・支援に関する研究 (平成22年度)

研究代表者 田中良広  
研究分担者 金子 健, 大内 進, 澤田真弓, 土井幸輝

### 概要:

本研究による平成18年度～19年度の課題別研究「通常の学級に在籍している視覚障害児童・生徒の支援に関する調査」においては、視覚に障害がある児童生徒の学習面での支援に関して学習環境や教材・教具の整備、学力向上のための適切な指導が必ずしも保障されていない傾向が認められました。同じく平成19年度に実施した「全国小・中学校弱視特別支援学級及び弱視通級指導教室実態調査」の結果からは、指導・支援を行う担当教師の専門性が必ずしも高いとは言えない状況も浮かび上がってきました。

現在、小・中学校等に在籍する視覚障害のある児童生徒に対しては、特別支援学校（視覚障害）からのセンター的機能による支援が実施されています。全国の特別支援学校（視覚障害）の協力を得て、小・中学校等に在籍する視覚障害のある児童生徒に関し、当事者・指導者・支援者及び支援機関の双方を対象に、指導法や教材・教具への配慮や支援体制を把握することを目的として、小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する適切な指導・支援を保障するために必要な拡大教材の提供と活用、点字指導や歩行指導の実施、環境面への配慮などに関する実地調査及び質問紙による調査を実施します。その結果を基に特別支援教育体制での視覚に障害がある幼児児童生徒への適切な支援の在り方を提案します。

本研究による調査結果は、全国の特別支援学校（視覚障害）及び児童生徒等が在籍する小・中学校等に在籍する小・中学校等に在籍している視覚障害のある児童生徒等に対する指導・支援の改善及びセンター的機能充実のための資料として活用できます。また、本研究により明らかとなる課題は政策面での対応方策を見いだすという観点からも意義のあるものです。なお本研究は単年度で実施するものですが、その提案は次年度以降の研究推進にも活用します。

## 7. Implementation and evaluation study on the use of assistive technology (AT) in the classroom for responding to diverse needs of children with disabilities (FY 2009-2010)

Principal researcher MUNEKATA Tetsuya  
Co-researchers NAKAMURA Hitoshi, KANAMORI Katsuhiko, DOI Kouki

### Outline:

Hereafter classes will be taught using the New National Curriculum Guidelines. In view of this and the fact that disabilities of children entering schools have become severe, multiple, and diversified, this study will clearly define the methodologies to be used, including the procedures for selecting them, as regards assistive technologies (including assistive devices, teaching materials and tools, and techniques to use them) that respond to this development. We will examine reports on the use of assistive technologies in schools for special needs education. The various technologies used will be systematically classified into the categories "effectiveness in increasing or improving the functional capabilities of individuals with disabilities" and "effectiveness in achieving educational goals." Along with this, school case studies will be carried out and this study will propose assistive technology implementation procedures to be written in "Kobetsu no shidokeikaku" and "Kobetsu no kyouiku shien keikaku" of a child.

## ●Specialized Research B

### 1. Study on Education to Meet the Individual Needs of Children with Multiple Disabilities in Schools for Special Needs Education – Investigating the current state and examining the educational framework for children with multiple disabilities – (FY 2009-2010)

Principal researcher OSAKI Hirofumi  
Co-researchers SAITO Yumiko, MATSUMURA Kanyu, SASAMOTO Ken  
Research collaborator(s) YOKOO Shun, INOUE Masashi, ODA Yoshiaki, KOBAYASHI Michiyo, TANAKA Yoshihiro, SASAMORI Hiroki, NAGANUMA Toshio, NISHIMAKI Kengo, HIROSE Yumiko

### Outline:

This study will clarify the current state and issues regarding measures to improve education to meet the educational needs of individual children with multiple disabilities (students with multiple types of disabilities) who are enrolled in schools for special needs education by questionnaire and interview surveys. The study will also consider the ideal state of education of children with multiple disabilities to be provided in Japan in the future. The study findings will assist future research on the education of children with multiple disabilities.

Specifically, the study will clarify the following of students with multiple disabilities (students with multiple types of disabilities) who are enrolled in school of special needs education:

1. Curriculum
2. Teaching contents and methods
3. Teaching system
4. Challenges in education in order to meet the educational needs of individual children
5. Innovative use of knowledge regarding each disability category

The study will clarify the current state and issues regarding measures to meet the educational needs of individual students with multiple disabilities (students with multiple types of disabilities) who are enrolled in schools for special needs education based on the results of surveying the above five issues. The study will also examine measures to improve education in order to meet the educational needs of individual children attending schools for special needs education in the future.

### 2. Study on Guidance and Support for Students with Visual Impairment Enrolled in Elementary and Lower Secondary Schools (FY 2010)

Principal researcher TANAKA Yoshihiro  
Co-researchers KANEKO Takeshi, OOUCHI Susumu, SAWADA Mayumi, DOI Kouki

### Outline:

NISE's FY 2006-2007 research in specific areas entitled "Survey of support for students with visual impairment enrolled in regular classes" revealed that the learning environment and educational materials, as well as appropriate guidance to improve academic achievement, are not always ensured to support the learning of students with visual impairment. The results of a national survey on actual conditions of elementary and lower secondary schools and special needs services in resource rooms for children with low vision, which was also conducted in FY 2007, found that teachers in charge of guidance and support do not always have high-level expertise.

Currently, schools for special needs education (for visual impairment) serve as resource centers and provide support for children with visual impairment who are enrolled in elementary and lower secondary schools. With regard to students with visual impairment enrolled in elementary and lower secondary schools, field and questionnaire surveys will be conducted involving students, teachers and supporters as well as supporting organizations in order to clarify considerations for teaching methods and educational materials and support system, in cooperation with schools for special needs education (for children with visual impairment) throughout Japan. The issues examined in these surveys are the provision and use of optical aid materials, the implementation of Braille teaching and orientation & mobility and the environmental considerations, which are necessary to ensure appropriate guidance and support for children with visual impairment enrolled in elementary and lower secondary schools. Based on the survey results, the study will propose appropriate support for children with visual impairment in the special needs education system.

The result of this study will be distributed to schools for special needs education (for visual impairment), as well as elementary and lower secondary schools in which children with visual impairment are enrolled, throughout Japan. The results will also be used to improve guidance and support for students with visual impairment and the resource-center function of these schools. The issues clarified by the study will be significant in developing political measures. A proposal to be made in this single-year study will be used in studies in the following fiscal years.



3. 軽度・中等度難聴児に対する指導と支援の在り方に関する研究 (平成22～23年度)

研究代表者 原田公人  
研究分担者 小田侯朗  
研究協力者 藤本裕人

**概要：**  
本研究所では、平成15年～20年にかけて特別支援学校（聴覚障害）における手話活用や授業とその評価について研究を進めてきました。そこでは対象となる幼児児童生徒の障害やコミュニケーション手段の多様化が近年の課題として指摘されました。中でも障害の早期発見システムの進展や人工内耳装用児の増加などにもない、特別支援学校を含め、軽度・中等度難聴の児童生徒への教育的な対応がより重要な課題と位置づけられるようになってきました。本研究ではこれらの子どもへの指導や支援の在り方とともに保護者等への支援も含めて検討します。  
そこで、まず軽度・中等度難聴児の教育的対応や保護者等の関係者支援に関する調査を実施し、現状や課題を把握します。また補聴器や人工内耳装用児の指導・支援に関しては、特別支援学校、通常の小・中学校、医療機関等での指導・支援事例を収集し、上記調査と関連づけながら検討を進めていきます。内容としては聴覚学習プログラム、コミュニケーション力や学力・言語力の育成、自己理解を含めた心理的課題等について検討し、望ましい支援・指導の在り方を報告書としてまとめます。  
本研究により、聴覚障害児の早期発見・早期教育の進展を踏まえた乳幼児教育相談段階での軽度・中等度難聴児及びその保護者・担当教員等への教育的対応方法や聴覚を活用した効果的指導法や課題を明らかにします。また、言語発達等には顕著な遅れが指摘されない軽・中等度難聴児に対しても、その心理的な側面や社会参加等についてよりきめ細やかな教育的対応方法を報告書で明らかにすることで、担当教員や保護者等の聴覚障害児への望ましい指導・支援の在り方を検討します。そして研究成果は、聴覚障害に関わる専門研修でも活用します。

4. 言語障害のある子どもの通常の学級における障害特性に応じた指導・支援の内容・方法の開発に関する研究 - 通常の学級と通級指導教室の連携を通して - (平成22～23年度)

研究代表者 牧野泰美  
研究分担者 松村勘由, 久保山茂樹, 小林倫代

**概要：**  
構音障害、吃音等、言語障害のある子どもの障害特性に応じた指導・支援については、言語症状への治療的な指導の方法、言語障害の状態の認識や受容への支援の在り方等、通級指導教室における個別の対応を中心に、その内容・方法の研究・開発が進められてきました。子どもが多く時間を過ごす通常の学級での対応に関しては、主に、周囲が配慮すべき事項について報告されてきましたが、通常の学級という集団の場において可能な指導・支援の方法や、学校生活全般における障害特性に応じた配慮事項等は充分には検討・整理されていない状況にあります。  
そこで本研究では、これまでの知見を踏まえ、授業や休み時間、放課後等、通常の学級における学習や生活の各場面での障害特性に応じた指導・支援の工夫、配慮事項について体系的に整理するとともに、子どもの言語面に対して、通常の学級で可能な指導内容・方法について検討します。また、通級指導教室の指導と通常の学級の指導の関連性や役割の区分などを整理し、通級指導教室と通常の学級のより機能的な連携の内容・方法について考察します。具体的な研究活動としては、研究課題に関わる実践報告や研究をレビューするとともに、各学校現場での状況を調査しその現状と課題を把握します。さらに、課題に関わる実践例の収集と実践研究を行い、言語障害のある子どもの通常の学級での生活を円滑にするための知見・方法を整理します。  
本研究の成果は、通常の学級担任に可能な言語障害のある子どもへの指導・支援や配慮事項、通級指導担当教員が行う通常の学級への支援、双方の連携の在り方等についての知見を具体的に教育実践に活用できる形にまとめ、研究報告書として提供します。  
本研究は、通級指導担当教員や通常の学級担任の資質向上にも資するものであるとともに、通常の学級に在籍する言語障害のある子どもの学習や生活の向上に寄与するものです。

5. 肢体不自由のある児童生徒の障害特性に配慮した教科指導に関する研究 - 表現する力の育成をめざして - (平成22～23年度)

研究代表者 長沼俊夫  
研究分担者 徳永亜希雄, 金森克浩, 齋藤由美子, 笹本 健

**概要：**  
肢体不自由のある児童生徒が「生きる力」をはぐくむためには、各教科等の指導においても障害による経験の不足や障害特性から生じる学びにくさを踏まえた配慮や工夫が必要です。一方、重度重複化の傾向が顕著な特別支援学校（肢体不自由）においては、教科指導のノウハウが継承されにくくなっている状況にあります。また、小・中学校の特別支援学級（肢体不自由）についても、この10年間で在籍する児童生徒数が約2倍に増えていますが、特別支援教育制度になってからの教科指導の実態については十分に把握できていない状況にあります。  
そこで、本研究では、肢体不自由のある児童生徒の教科指導において表現する力の育成を図るという観点から、指導法、教材教具、配慮・工夫点等の関連資料の収集整理蓄積に取り組みとともに、特別支援学校及び特別支援学級の実態を把握し、児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導の在り方を提案します。  
特別支援学校(肢体不自由)を対象とした教科指導(単一障害、重複障害)に関する実施状況を把握し、これまでの特別支援学校(肢体不自由)の実践記録等の分析をとおして、専門的指導の内容(指導法、教材教具、配慮・工夫)を整理します。また、小・中学校特別支援学級(肢体不自由)における教科指導に関する教育課程実施の実態を把握し、教科指導上の課題を明らかにした上で、集積した専門的指導の内容(指導法、教材教具、配慮・工夫)を活用した指導実践の在り方を提案します。  
教員向けの平明な報告書を作成し、全国関係機関に配布します。本研究は、肢体不自由のある児童生徒が、特別支援学校、小・中学校等のいずれの場で学習しても、肢体不自由教育に求められる専門的な支援に基づく教科指導の展開に寄与できます。

3. Study on Guidance and Support for Children with Mild or Moderate Hearing Impairment (FY 2010-2011)

Principal researcher HARADA Kimihito  
Co-researchers ODA Yoshiaki  
Research collaborator(s) FUJIMOTO Hiroto

**Outline:**  
NISE has conducted the research on the use and evaluation of sign language in classes for children with hearing impairment at schools for special needs education from FY 2003 to FY 2008. The research pointed out the disabilities of those children and the diversification of communication tools as the recent issues to be resolved. According to the progress of the system to detect disabilities at the early stage and the increasing number of children with cochlear implants, it has become increasingly important to place the educational support in response to children with mild or moderate hearing impairment, including the measures for schools for special needs education. This study will examine the guidance and support for these children as well as for their guardians.  
First of all, the survey will be conducted on the educational support provided for children with mild or moderate hearing impairment, their guardians, and others to comprehend the current situations and issues. Regarding the guidance and support for children with hearing aids or cochlear implant, the study will collect examples provided by schools for special needs education, regular elementary and lower secondary schools, and medical institutions. Then, these examples will be examined, collaborating with the survey mentioned above. Specifically, this study will examine the learning programs for children with hearing impairment such as the improvement of communication skill and academic achievement, the language ability, and psychological issues including self-understanding. Desirable guidance and support will be summarized in the report.  
This study will clarify the educational supports for children with mild or moderate hearing impairment, their guardians, and teachers in terms of counseling for infants, based on the progress of early detection of hearing problems and the early education for children with hearing impairment. The study will also determine the effective teaching methods, using sense of hearing and related issues. Additionally, the study will clarify and report on more detailed educational support in terms of psychological aspects and social participation of children with mild or moderate hearing impairment whose language development is not overdelayed. Therefore, the study will examine the ideal guidance and support for teachers and guardians so that the results will be used for training programs for those who have hearing impairment.

4. Study on Development of the Contents and Methods of Guidance and Support in Regular Classes for Children with Speech and Language Disorders According to the Characteristics of the Disabilities - Through collaboration between regular classes and special needs services in resource rooms - (FY 2010-2011)

Principal researcher MAKINO Yasumi  
Co-researchers MATSUMURA Kanyu, KUBOYAMA Shigeki, KOBAYASHI Michiyo

**Outline:**  
Regarding guidance and support based on the characteristics of speech and language disorders such as articulation disorders and stuttering, research and development on the content of education and teaching methods have focused on individualized measures taken as part of special needs services in resource rooms such as therapeutic teaching methods for speech symptoms and support for awareness and acceptance of speech and language disorders. The aspects to be considered by those involved with children with speech and language disorders who spend long hours in regular classes have been pointed out. However, neither possible methods of providing guidance and support in regular classes nor matters to consider in overall school life based on the characteristics of the disabilities have been fully examined or systematized.  
Based on findings in previous research, this study will systematically summarize innovative forms of guidance and support, as well as matters to consider, in various scenes of daily life such as classes, breaks, and after-school hours according to the characteristics of the disorders. The study will also examine suitable instructions and teaching methods in regular classes to improve the language ability of children with speech and language disorders. Additionally, the study will summarize the relationship between teaching in special needs services in resource rooms and teaching in regular classes, as well as the division of their roles, and examine details and methods of more functional collaboration between special needs services in resource rooms and regular classes. Specific research activities will include reviewing practice reports and studies related to the research theme, surveying the situations at schools, and grasping the current state and issues. The study will also collect practical examples related to the research theme, conduct practical research, and summarize findings and methods to facilitate the life of children with speech and language disorders in regular classes.  
The study results will be compiled in a report to assist educational practice. The report will include guidance, support, and matters to consider for children with speech and language disorders that can be utilized by classroom teachers in regular education, support for regular classes to be provided by teachers in charge of special needs services in resource rooms, and collaboration between both groups of teachers.  
This study will improve the quality of teachers in charge of special needs services in resource rooms and classroom teachers in regular education. It will also help improve the learning and living of children with speech and language disorders enrolled in regular classes.

5. Study on Subject Teaching for Students with Physical/motor Disabilities Considering the Characteristics of the Disabilities - To develop the ability to express - (FY 2010-2011)

Principal researcher NAGANUMA Toshio  
Co-researchers TOKUNAGA Akio, KANAMORI Katsuhiko, SAITO Yumiko, SASAMOTO Ken

**Outline:**  
For children with physical/motor disabilities to develop the "zest for living", consideration and innovations are required in subject teaching, considering the difficulties in learning caused by lack of experience due to the disabilities and characteristics of the disabilities. However, knowledge related to subject teaching has been less successful at schools for special needs education for physical/motor disabilities where children tend to have severe and multiple disabilities. The number of students enrolled in classes for children with physical/motor disabilities at regular elementary and lower secondary schools has doubled over the past 10 years, and yet the conditions of subject teaching in these classes since the special needs education system was introduced are not fully understood.  
Therefore, this study will collect, organize, and accumulate information and data on teaching methods, educational materials, considerations, and innovations in order to develop the ability to express in subject teaching to children with physical/motor disabilities. The study will identify the conditions of schools and classes for special needs education, and propose appropriate teaching based on the actual circumstances of individual children.  
This study will examine actual subject teaching provided by schools for special needs education for physical/motor disabilities (single disability and multiple disabilities), and summarize specialized instructions (teaching methods, educational materials, considerations, and innovations) by analyzing records of previous practices at schools for special needs education for physical/motor disabilities. The study will also look at how the curriculum is implemented in subject teaching at classes for special needs education for physical/motor disabilities at regular elementary and lower secondary schools, clarify issues of subject teaching, and propose teaching practices utilizing the collected information on specialized instruction (teaching methods, educational materials, considerations, and innovations).  
A simple report for teachers will be produced and distributed to related organizations across the country. This study will contribute to subject teaching based on the specialized support required for teaching children with physical/motor disabilities, whether such children study at a school for special needs education or a regular elementary or lower secondary school.



6. 特別支援学校（病弱）のセンター的機能を活用した病気の子も支援ネットワークの形成と情報の共有化に関する研究 (平成22～23年度)

研究代表者 西牧謙吾
研究分担者 滝川国芳, 植木田潤
研究協力者 土井幸輝

概要：
近年の子どもの疾病構造の変化と医療の進歩の影響で、特別支援学校（病弱）に在籍する子どもの数は漸減し、病院にある学校でも在籍者の偏在傾向が顕著になってきています。一方、小・中学校等に在籍し、長期の医療を必要としている子どもの数は増加し、義務教育期間における病気による長期欠席者も4万人以上存在しています。これらの状況に対応するためには、病弱教育の専門性の蓄積と特別支援学校（病弱）のセンター的機能の有効活用が求められます。こうした観点から、本研究所では、全国特別支援学校病弱教育校長会、全国病弱虚弱研究連盟と連携し、改良した病類調査システムで把握した地域の病気の子どもの実態を基に、都道府県レベルでICTを活用した望ましいセンター的機能の在り方に関する研究を進めてきました。

これまでの取組から、小・中学校等や病院にある学校に在籍する病気の子もへの支援では、病気になった時点から前籍校等への復帰を円滑に進めるための特別支援学校と前籍校との連絡調整及びその後の学校保健での管理体制の維持が重要な課題であることが明らかになりました。本研究では、小・中学校等に在籍する長期の医療を必要としている子どもへの支援の質の向上を図るために、筋ジストロフィーや心身症等への組織的な支援の活性化と、全国の特別支援学校担当者の専門性の継承確保の望ましい在り方について事例研究を積み重ねます。また、病気のある児童生徒を取り巻く関係機関のネットワークを活用して、教育情報共有、情報交換を促進し、病気の児童生徒全体を見据えた病弱教育を推進する上でのICTの活用効果を検証します。

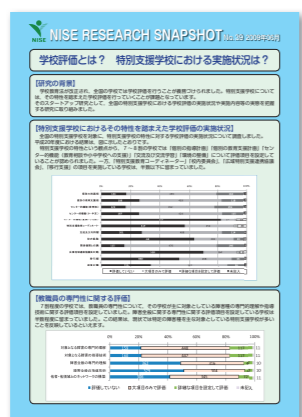
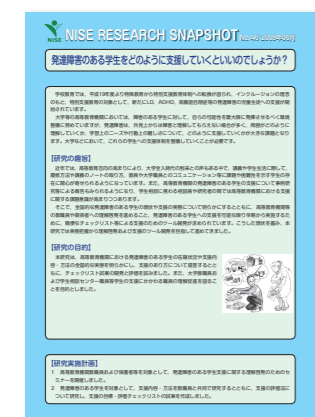
組織的な支援の活性化と専門性の継承確保の在り方に関する本研究の成果は支援冊子としてとりまとめます。また、ICTの活用効果の検証を通して、特別支援学校（病弱）が、県域を越えて病弱教育の情報共有、情報交換を促進することで、心身症・精神疾患等から希少疾患まで小・中学校等に在籍する多様な病気の児童生徒に対応可能であることが明らかに出来ます。

7. 発達障害と情緒障害の関連と教育的支援に関する研究 - 二次障害の予防的対応を中心に - (平成22～23年度)

研究代表者 藤井茂樹
研究分担者 廣瀬由美子, 植木田潤, 渥美義賢, 笹森洋樹, 大城政之, 伊藤由美, 梅田真理
研究協力者 滝川国芳, 西牧謙吾

概要：
発達障害のある子どもは、その障害特性から学校での集団生活に適応困難を示す場合が多くあります。学習面、行動面、対人関係におけるつまづきや失敗経験の積み重なり、無理強いなどの不適切な対応がくり返されると、さらなる適応困難を招いてしまうことになります。発達障害のある子どもの学校生活における不適応の問題の中には、適切な対応がなされないことによる二次障害によるものが多いと考えられます。また、緘黙や神経性習癖等の心因性の情緒障害については、教育的対応が体系化されていませんが、緘黙等の情緒障害のある子どもの中には発達障害のある子どもの割合が多いとの指摘もあります。

本研究では、二次障害の予防的対応に注目した教育的支援の在り方について教育現場に提案することを目的として、医学的な評価・判断も含め、関連文献や先行研究等から情緒障害の概念を整理し、発達障害と情緒障害の関連性について検討するとともに、医療・福祉等の協力機関や研究協力校における調査を通して、特に二次障害の予防的対応に注目した望ましい教育的支援の在り方を明らかにします。学校現場では行動問題や不登校等の二次障害に対して対症療法的な対応していることが多く、予防的対応という視点での支援が十分とはいえない現状にあります。本研究は、学校において対応の難しい発達障害や情緒障害のある子どもへの支援の在り方という喫緊の課題対応への一助になるものと考えています。



- NISE RESEARCH SNAPSHOT (スナップショット)
研究成果の普及のため、各研究課題の成果をわかりやすく簡潔にまとめ、配布やWeb掲載をしています。
http://www.nise.go.jp/blog/2008/06/post\_850.html
○NISE RESEARCH SNAPSHOT
NISE summarizes the results of each themed research briefly and clearly, distributes the results, and posts them on the website to make them widely available.
http://www.nise.go.jp/blog/2008/06/post\_850.html

6. Study on Creating Support Networks for Sick Children and Information-Sharing Using the Functions of Schools for Special Needs Education (for Health Impairments) as a Resource Center (FY 2010-2011)

Principal researcher NISHIMAKI Kengo
Co-researchers TAKIGAWA Kuniyoshi, UEKIDA Jun
Research collaborator(s) DOI Kouki

Outline:
Affected by the recent changes in the disease patterns of children and medical care developments, the number of children enrolled in schools for special needs education for health impairments has decreased gradually. The number of children enrolled in in-hospital schools differs greatly among schools. On the other hand, the number of children enrolled in regular elementary and lower secondary schools and who need long-term medical care has increased. There are more than 40,000 students who are absent from school for a long time due to illness during the compulsory education period. It is therefore necessary to accumulate expertise on the education of children with health impairments and to effectively use the functions of schools for special needs education for children with health impairments as a resource center. NISE has therefore collaborated with the National Association of Principals of Schools for Special Needs Education for Children with Health Impairments and the National Federation of Health Impairments Research, and conducted research on desirable functions as a resource center using ICT at the prefecture level based on the actual conditions of sick children in communities as revealed by an improved disease survey system.

As for support for sick children enrolled in elementary and lower secondary schools and in-hospital schools, studies have revealed that liaison and coordination between schools for special needs education and regular schools to which the children belonged before entering a school for special needs education, and maintenance of a health management system at schools, are important in order for children to return to regular education smoothly. This study will accumulate case studies on building organizational support for children with muscular dystrophy and psychosomatic diseases and case studies on how expertise should be passed on among persons in charge at schools for special needs education throughout Japan in order to enhance the quality of support for children who are enrolled in elementary and lower secondary schools and need long-term medical care. The study will promote the sharing and exchange of information on special needs education using networks of organizations related to sick children. The study will verify the effects of ICT in promoting education of children with health impairments.

The results of this study related to building organizational support and passing on expertise will be consolidated into a booklet. In addition, the study will clarify, by verifying the effects of ICT, that schools for special needs education can accommodate students who are enrolled in elementary and lower secondary schools and have diverse diseases such as psychosomatic, psychiatric, and rare diseases, by cross-prefectural sharing and exchange of information on the education of children with health impairment.

7. Study on Relationship between Developmental Disabilities and Emotional Disturbance and Educational Support - Focusing on measures to prevent secondary disabilities - (FY 2010-2011)

Principal researcher FUJII Shigeki
Co-researchers HIROSE Yumiko, UEKIDA Jun, ATSUMI Yoshikata, SASAMORI Hiroki, OSHIRO Masayuki, ITO Yumi, UMEMA Mari
Research collaborator(s) TAKIGAWA Kuniyoshi, NISHIMAKI Kengo

Outline:
Children with developmental disabilities often have difficulty adapting to group living at schools due to the characteristics of their disabilities. Accumulated experience of errors and failures in learning, behaviour, and interpersonal relationships, as well as repeated inappropriate treatment such as coercion, will lead to further difficulty in adjustment. It is believed that many of the adjustment problems of children with developmental disabilities in their school life are the result of secondary disabilities due to lack of appropriate measures. Educational measures for children with psychogenic emotional disturbances such as mutism and nervous habits have not been systematically organized. According to some studies, children with emotional disturbances such as mutism account for a large proportion of children with developmental disabilities.

This study aims to propose preferred educational support focusing on measures to prevent secondary disabilities to educational sites. The study will organize the concept of emotional disturbance by referring to related literature and past studies including medical diagnosis and assessment, examine the relationship between developmental disabilities and emotional disturbance, and clarify desirable educational support, focusing on measures to prevent secondary disabilities, through surveys of cooperating medical care and welfare organizations and schools cooperating with this research project. Many schools respond only to the symptoms of secondary disabilities including behavioral problems and truancy, and do not provide sufficient support to prevent the problems. This study will help to resolve the urgent issue of support for children with developmental disabilities or emotional disturbances which is difficult to resolve at schools.



## ●専門研究D

1. 障害のある子どもの学習言語に関する基礎的研究  
—授業で使用される教科書及び指導者が使用する言語の把握— (平成21～22年度)

研究代表者 藤本裕人

## 概要:

障害のある児童への教育では、教科学習に必要な言語力をどのように育成するかという場合に、「生活言語」から「学習言語」へと発展させていくという解釈がなされる場合が多くあります。一般的に「学習言語」は、「教科学習に必要な言語」ということでは一定の理解はなされてはいますが、学校教育の授業の実際をふまえた上で、「学習言語」の具体は何かということについては、完全には明確になっていない現状があります。本研究では、まず、小学生年齢の授業で使用される学習指導要領に基づく教科用図書の語句・文章等の分析に着手するとともに、教科書を使った授業場面で、指導者が子どもに発問したり説明したりする際のやりとりの状況等も視野に入れて検討を行います。障害のある児童が教科学習を行う上で、指導上の配慮等を念頭に置きながら、「学習言語」の具体的な中身を明らかにすることを目的とする基礎的研究に取り組みます。

## ■共同研究

1. 障害のある子どもを支える地域づくりのための関係機関の連携に関する実際研究  
(平成22～23年度)

研究代表者 小澤至賢  
共同研究機関 横須賀市、県立保健福祉大学  
研究分担者 西牧謙吾、久保山茂樹、齊藤由美子、植木田潤

## 概要:

特別支援教育の分野では、その充実に向けて、関係機関が連携した組織的な対応の法的根拠が明確になり、学校の内部での体制整備、外部との連携協力のシステム作りの重要度は一層増している。特別支援教育の体制整備は、学校や教育委員会だけでなく、より大きな広域性と多様な関係機関の連携が必要である点に大きな特徴がある。特別支援教育に関連している機関には、学校を含めた教育や福祉、労働、保健などの公的機関、また、NPO法人や企業、ソーシャルビジネス等がある。各機関はそれぞれの機関の利益を目的としているが、特別支援教育の推進のため、社会的な利益、市区町村などの地域全体の利益、各組織体の利益などを調整して行く必要がある。この調整過程において、特別支援教育に関して、地域の関係機関の協働で、よりよい地域にしていくための価値形成の取り組み、各事業の実施後の評価を次の施策へ生かしていく仕組みの構築が必要となる。このような視点から関係機関の連携の在り方について、実践を積み重ね、その知見を整理する必要があると考えた。

本研究では、地方自治体の特別支援体制構築の分野における理論的整理及び横須賀市をフィールドとした実践研究を実施する。具体的には、これまでの理論的整理と実践研究をさらに発展させ、横須賀市とともに他地域の実践研究による具体的な事例の収集を行い、関係機関の参加と協働を前提としたマネジメントの在り方について参加型アクションリサーチの理論をもとに、研究者と現場との協働関係によって得られた知見を整理し整理する。

関係機関が連携した特別支援教育体制の構築と運用におけるマネジメントの在り方について情報提供することで、地方自治体における全体的な施策の中での、特別支援教育の分野の在り方が理解され、施策に反映できることから、地方自治体における教育行政への寄与となる。

2. 無色透明な紫外線硬化樹脂インクを用いた触知図・点字に関する製作システムの開発とそれらの触読性評価に関する研究  
(平成21～22年度)

研究代表者 土井幸輝  
共同研究機関 早稲田大学  
研究分担者 大内 進、澤田真弓、中村 均、金森克浩

## 概要:

現在、「情報格差の改善」、「情報のユニバーサル・デザイン(アクセシブル・デザイン)」の観点から、視覚障害の有無に関わらず共用できる各種教材等の作成が進みつつあります。その背景には、特殊なインクを用いて墨字と点字・線図の併記を可能にする印刷技術の進展が大きく関係しています。具体的には、無色透明な紫外線硬化樹脂インクを用いたスクリーン印刷方式による触知図や点字が様々な印刷物に適用されつつあります。しかし、その印刷方式の特性上、細か線図の表現ができないことやインクの盛り上がりが必要でも十分ではないため触読しにくい触知図や点字も見られることなど、多くの改善が必要であると指摘されています。また、スクリーン製版という大掛かりな工程があるがために、一人一人の子どものニーズに合わせた少量の教材を作成するには必ずしも適した方法ではないという指摘もあります。

そこで本研究では上述の背景を踏まえ、スクリーン製版の工程を含まない触知図・点字の製法を提案すると共に、印刷後の仕上がりの改善を目指します。具体的には、無色透明な紫外線硬化樹脂インクを用いた触知図・点字に関する新規製作システムを開発し、それらの触読性評価に関する定量的な実験を行います。

なお、本研究を通じて、アクセシブル・デザインの視点での本研究所のパンフレットの作成を手がけ、具体的に教材の作成も検討していきます。また、成果物は本研究所のiライブラリにも展示する計画で進めていきます。本研究により、共用可能な教材の普及につなげていきたいと考えております。

## ●Specialized Research D

1. Basic Research on Languages Used in Learning by Children with Disabilities  
— Comprehending the languages used in textbooks and by teachers — (FY 2009-2010)

Principal researcher FUJIMOTO Hiroto

## Outline:

Regarding the development of language abilities required for subject learning in education for children with disabilities, many researchers consider that “Daily-Life words” develops into “words used in classes”. Generally, “words used in classes” is accepted as the “language required for subject learning” with a certain level of understanding. However, the specific concept of “words used in classes” based on actual classes provided at schools has not been clarified fully. This study will first analyze phrases and sentences in textbooks used by elementary schools based on the National Curriculum Guidelines and then examine “words used in classes” including languages used by teachers when they teach textbooks, ask questions, and explain to children. This basic study will aim to clarify the details of “words used in classes”, while examining aspects to be considered in subject instruction for children with disabilities.

## ■Collaborative research

1. Practical Study on Collaboration among Related Organizations Aiming for Community Development to Support Children with Disabilities  
(FY 2010-2011)

Principal researcher OZAWA Michimasa  
Collaborative organization Yokosuka City, Kanagawa University of Human Services  
Co-researchers NISHIMAKI Kengo, KUBOYAMA Shigeki, SAITO Yumiko, UEKIDA Jun

## Outline:

The legal basis of organizational cooperation among related organizations in the field of special needs education has been made clear in order to improve education for children with disabilities. The importance of developing systems within schools and establishing collaborative systems with external organizations has been increasing. One characteristic of developing systems in special needs education is that it requires collaboration among a wide range of related organizations as well as collaboration among schools and boards of education. Organizations involved in special needs education include public agencies in the fields of education, welfare, labor, and health, including schools, NPOs, enterprises, and social businesses. These organizations pursue their own purposes and benefits. In order to promote special needs education, it is necessary to adjust the benefits to society, communities/municipalities, and each organization. In this adjustment process, it is necessary to form values to create better communities in cooperation with other organizations and communities and to develop a mechanism to utilize post-project evaluation for subsequent measures in special needs education. It is therefore necessary to accumulate collaboration among related organizations and consolidate findings.

This study will provide a theoretical basis for local governments to develop special support systems and conduct practical research in Yokosuka City. Specifically, the study will build on previous theoretical work and practical research, collect case examples in Yokosuka City and other communities, and summarize findings on management based on participation and collaboration of related organizations through collaborative relationships between researchers and educational sites based on the theory of participatory action research.

The study will provide information on the development of special needs education systems to be achieved in cooperation with related organizations and on management in using the systems. This will promote understanding of special needs education in overall measures by local governments and will be reflected in measures taken by local governments, thus contributing to the educational administration of local governments.

2. Study on the Development of a Tactile Graphics and Braille Production System Using Clear and Colorless UV Curable Resin Ink and an Evaluation of its Readability  
(FY 2009-2010)

Principal researcher DOI Kouki  
Collaborative organization Waseda University  
Co-researchers OOUCHI Susumu, SAWADA Mayumi, NAKAMURA Hitoshi, KANAMORI Katsuhiko

## Outline:

Currently, various types of teaching materials which can be used by children with and without visual impairment are being produced to reduce the digital divide and ensure the universal design (accessibility) of information. This is closely associated with the development of a printing technology which allows the use of script, Braille, lines, and graphics in parallel using special ink. Specifically, tactile graphics and Braille using clear and colorless UV curable resin ink and screen printing are being applied to a wide range of printed matter. However, this printing method needs to be improved because it inherently cannot express detailed lines and graphics and insufficient elevation of the ink makes some tactile graphics and Braille difficult to read. In addition, it has been pointed out that the method is not ideal for producing small quantities of teaching materials tailored to the needs of individual children due to the large-scale process of screen plate making.

In view of this background, this study will propose a method of tactile graphics and Braille production which does not require the screen plate-making process and aim to improve finished products. Specifically, the study will develop a new system for producing tactile graphics and Braille using clear and colorless UV curable resin ink and conduct a quantitative experiment to evaluate the readability.

In this study, NISE brochures including will be produced and the production of actual teaching materials will be also considered. Products will be displayed on NISE's i-Library. This research hopes to disseminate dual-use teaching materials.



### 3. 全盲児童の図形表象の評価に関する実際研究

(平成21～22年度)

研究代表者 大内 進  
共同研究機関 東京工芸大学

**概要：**

視覚に障害があっても触覚を効果的に活用して2次元な情報を理解することが可能です。図や絵などの2次元情報を活用するためには、触覚的な情報を的確に認知するだけでなく、認知した内容をできるだけ正確に表現できる力を育てていくことも大切なことです。しかしながら、触覚活用による図形の形状や大きさの理解や表現の正確さの評価は、主観的な尺度によるものが多く、また、児童生徒が直接確認する方法が確立されていないことも課題となっています。本研究では、平成18年～19年の共同研究で実施した盲児の図形模写の客観的評価のシステムを基に、評価の信頼性を向上させた学校等で実際に活用できる実用的なツールを開発し、視覚障害児の図形活用力の向上への寄与を目指します。

### 4. 発達障害のある子どもの教育情報の収集と提供に関する実際研究

－情報共有・連携システムの構築と連携した情報提供の試行と評価－ (平成22～23年度)

研究代表者 渥美義賢  
共同研究機関 国立情報学研究所  
研究分担者 笹森洋樹, 大城政之, 海津亜希子, 伊藤由美, 梅田真理  
研究協力者 滝川国芳, 金森克浩

**概要：**

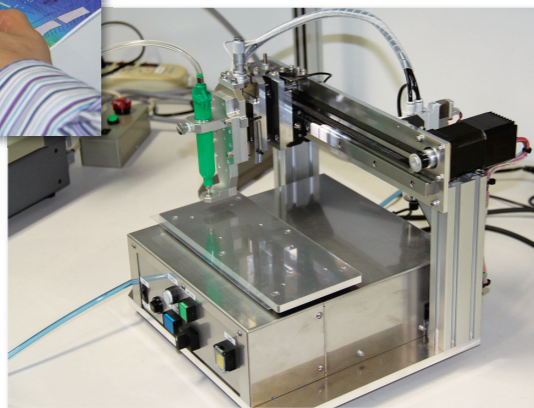
発達障害のある子どもについて、教育的支援にあたる小・中学校等の教員に対する専門性の向上、及び保護者や関連機関・者への情報提供等による総合的な支援の充実が喫緊の課題であり、これが本研究所に発達障害教育情報センターの設置された理由でもあります。そこで、本センターでは発達障害のある子どもの教育に関する情報を、本研究所で行ってきた教育研究成果等、本研究所の現有の情報を分かりやすく提供してきました。しかし、早急に子どもへの対応について知識を得たい教員のニーズは広範であり、本研究所の有する情報だけでは充分とはいえず、一方で新たな研究成果の追加には時間がかかります。

そこで、本研究では都道府県等や同特別支援教育センター等との有機的な連携を基にして、発達障害のある子どもの教育についての情報収集・整理・公開のシステムを、国立情報学研究所・社会共有知研究センターによるCMSであるNetCommonsをベースに検討・開発します。本センターでは、すでにNetCommonsを導入しており、これによってさまざまな双方向でのコミュニケーションによる情報のやり取りが可能となっています。また、NetCommonsは2007年10月現在で約1500か所の教育委員会や教育センター、教育機関等で導入されており、それらにおける研究成果を有機的に連携させること等により、独自の情報システムで公開する場合と比較して、容易に成果が普及されることが期待されます。

これによって、教育関係者を中心に発達障害のある子どもの教育に関係する人への的確で豊富な情報の提供、さらには国民全体への広汎な啓発が可能となります。

【共同研究】無色透明な紫外線硬化樹脂インクを用いた触知図・点字に関する製作システムの開発とそれらの触読性評価に関する研究に係る、触知図(左)とその作成機器(下)

Collaborative research: Tactile graphic (left) and the production system (below) described in the study on the development of tactile graphics and Braille production system using clear and colorless UV curable resin ink and an evaluation of its readability



### 3. Practical Study on the Evaluation of Figure Tracing by Totally Blind Children

(FY 2009-2010)

Principal researcher OOUCHI Susumu  
Collaborative organization Tokyo Polytechnic University

**Outline:**

People with visual impairment can understand two-dimensional information by effectively using their tactile perception. In order to use two-dimensional information such as figures or images, it is important to develop the ability to accurately represent the recognized information, as well as to recognize tactile information accurately. However, evaluating the level of recognition of the shape and size of images and the accuracy of representation is often subjective when using tactile perception. Another issue is that a method for direct confirmation by children with visual impairment has not yet been established.

Based on the system of objective evaluation of figure tracing by blind children developed in the 2006-2007 collaborative research, this study will attempt to develop a practical tool for use in schools with improved evaluation reliability and to improve the ability of children with visual impairment to use figures.

### 4. Practical Study on the Collection and Provision of Information on Special Needs Education of Children with Developmental Disabilities

－ Establishment of an information-sharing and collaboration system, and trial and evaluation of information services – (FY 2010-2011)

Principal researcher ATSUMI Yoshikata  
Collaborative organization National Institute of Informatics  
Co-researchers SASAMORI Hiroki, OSHIRO Masayuki, KAIZU Akiko, ITO Yumi, UMEDA Mari  
Research collaborator(s) TAKIGAWA Kuniyoshi, KANAMORI Katsuhiro

**Outline:**

In the education of children with developmental disabilities, there is an urgent need to raise the skills of teachers at elementary and lower secondary schools who provide educational support for children and to improve comprehensive support for guardians, related organizations, and other persons through information services. NISE therefore established the Information Center of Education of Persons with Developmental Disabilities. This Center provides information on the education of children with developmental disabilities, results of educational research conducted by NISE, and information collected by NISE in an easily understandable manner. However, teachers wishing to quickly obtain knowledge about measures for children have diverse needs. The information offered by NISE is insufficient for these teachers, and yet it takes time to add the results of new research.

Therefore, this study will examine and develop a system to collect, arrange, and publicize information on the education of children with developmental disabilities based on systematic collaboration with prefectures and special needs education centers and using Net Commons, which is a CMS developed by the Research Institute of Socially Shared Knowledge of the National Institute of Informatics. The Information Center has already introduced Net Commons, which allows information to be exchanged through various interactive communication methods. Approximately 1,500 boards of education, education centers, and educational institutions have introduced Net Commons as of October 2007. Net Commons will make it easier to distribute research results compared with the Center's original information system by such means as organically integrating the research results of these organizations.

This will allow a great deal of appropriate information to be provided to teachers and other people involved in education for children with developmental disabilities, and will also raise the awareness of people throughout Japan.



所属	名前	役職	専門分野	Key Words
企 画 部	松村 勘由	上席総括研究員 (総合企画調整担当)	聴覚・言語障害	通級による指導, 関係障害, コミュニケーション障害
	中澤 恵江	上席総括研究員 (国際担当)	重複障害	盲ろう教育, コミュニケーションの発達, 家族・専門家ネットワークづくり
	柘植 雅義	上席総括研究員 (評価担当)	発達障害	障害児心理学, 指導法, コーディネーター, 教育政策, 評価
	小松 幸恵	総括研究員 (行財政等担当)	教育政策	教育行政, 教育関連法令
	藤本 裕人	総括研究員 (研究計画調整担当(兼)政策連携担当)	教育政策	教育課程・教科指導, 自立活動, 聴覚・言語障害, 聾学校
	棟方 哲弥	総括研究員 (国際交流担当(兼)国際比較担当)	教育工学	アシスティブ・テクノロジー, 教材教具開発, 形成的評価
	滝川 国芳	総括研究員 (評価担当)	病弱教育	教育課程, 学校支援, ICT
	金子 健	主任研究員	視覚障害	自立活動, 触図作成, 乳幼児支援
	徳永 亜希雄	主任研究員	肢体不自由	自立活動, ICF (国際生活機能分類), ICF-CY (国際生活機能分類児童版)
	久保山 茂樹	主任研究員	言語・コミュニケーション障害	子育て支援, 乳幼児, 地域の支援システム
	柳澤 亜希子	研究員	自閉症	障害児・者のきょうだい支援, 個別の家族支援計画 (IFSP), 障害理解教育
教 育 支 援 部	大内 進	上席総括研究員 (学校教育支援担当(兼)調査担当)・(兼)部長	視覚障害	全盲児の学習指導, 点字および触知覚研究, イタリヤの教育
	西牧 謙吾	上席総括研究員 (事業・連携・生涯学習担当)	病弱虚弱, 脳科学	地域支援, 公衆衛生, 小児科学, 脳科学
	長沼 俊夫	総括研究員 (調査担当)	肢体不自由	重度重複障害, 授業研究, チーム・ティーチング
	井上 昌士	総括研究員 (特別支援学校担当)	自閉症/知的障害	教育課程, 授業改善
	工藤 傑史	総括研究員 (特別支援学校担当)	知的障害	音楽教育, 授業づくり, 生涯学習支援
	廣瀬 由美子	総括研究員 (小中学校等担当)	発達障害・情緒障害	教師支援, 授業研究, 特別支援学級
	澤田 真弓	総括研究員 (事業・連携担当)	視覚障害	自立活動, 教科指導, 点字指導
	原田 公人	総括研究員 (生涯学習担当)	聴覚障害	早期教育, 人工内耳, 補聴器
	猪子 秀太郎	主任研究員	知的障害	応用行動分析, 個別の指導計画
	菊地 一文	主任研究員	知的障害	自閉症, 授業づくり, キャリア教育
	小澤 至賢	主任研究員	知的障害/自閉症	コンサルテーション, 地域の支援システム
	牧野 泰美	主任研究員	聴覚・言語障害	言語指導, 言語獲得, コミュニケーション障害
	玉木 宗久	主任研究員	自閉症	ADHD, LD
涌井 恵	研究員	発達障害/知的障害	協同学習, 社会的スキル	

Affiliation	Name	Position	Specialized Field	Key Words
Department of Policy and Planning	MATSUMURA Kanyu	Research Director (General Planning and Coordination)	Speech and Hearing Impairment	Resource Room, Communication Disabilities
	NAKAZAWA Megue	Research Director (International Affairs)	Multiple Disabilities	Deafblind Education, Development of Communication, Networking Families and Professionals
	TSUGE Masayoshi	Research Director (Evaluation)	Developmental Disabilities	Psychology of Children with Disabilities, Teaching Methods, Coordinator, Education Policy, Evaluation
	KOMATSU Sachie	Senior Chief Researcher (Administration and Finance)	Policy of Education for Children with disabilities	Educational Administration, Education-related Laws
	FUJIMOTO Hiroto	Senior Chief Researcher (Research Planning Coordinator, Policy Coordinator)	Policy of Education for Children with disabilities	Course Instruction, Activities to Promote Independence, Speech and Hearing Impairment, School for deaf
	MUNEKATA Tetsuya	Senior Chief Researcher (International Exchange, International Comparison)	Educational Technology	Assistive Technology, Educational Materials, Formative Evaluation
	TAKIGAWA Kuniyoshi	Senior Chief Researcher (Evaluation)	Education for Health Impairments	Curriculum, School Support, Information and Communication Technology (ICT)
	KANEKO Takeshi	Chief Researcher	Visual Impairments	Activities to Promote Independence, Tactile Graphics, Support for Infants
	TOKUNAGA Akio	Chief Researcher	Physical/Motor Disabilities	Activities to Promote Independence, ICF(International Classification of Functioning, Disabilities and Health), ICF-CY
	KUBOYAMA Shigeki	Chief Researcher	Communication Disabilities	Child Care Support, Infants and toddlers, Social Support System
	YANAGISAWA Akiko	Researcher	Autism	Support for Siblings Living Persons with Disabilities, Individual Family Support Program(IFSP), Education aiming at promoting an understanding to disabilities
Department of Educational Support	OOUCHI Susumu	Research Director (Special Needs Education, Survey) Department Head	Visual Impairments	Educational Guidance for Blind Children, Studies of Braille and Haptic Perception, Education in Italy
	NISHIMAKI Kengo	Research Director (Seminar Coordinator, Medical and Welfare Coordinate, and Lifelong Learning)	Health Impairments, Neuroscience	Social Support, Public Health, Pediatrics, Neuroscience
	NAGANUMA Toshio	Senior Chief Researcher (Survey)	Physical/Motor Disabilities	Profound and Multiple Disabilities, Study of Teaching-Learning, Team Teaching
	INOUE Masashi	Senior Chief Researcher (Special Needs Education Schools)	Autism, Intellectual Disabilities	Course Instruction, Improvement of Instruction in Classes
	KUDO Takeshi	Senior Chief Researcher (Special Needs Education Schools)	Intellectual Disabilities	Music education, class creation, support for lifelong learning
	HIROSE Yumiko	Senior Chief Researcher (Regular Schools)	Developmental Disabilities, Emotional Disabilities	Support for teachers, research on in-class teaching, special needs classes
	SAWADA Mayumi	Senior Chief Researcher (Seminar Coordinator, Medical and Welfare Coordinate)	Visual Impairments	Activities to Promote Independence, Course Instruction, Braille Teaching
	HARADA Kimihito	Senior Chief Researcher (Lifelong Learning)	Education for Deaf and Hard of Hearing	Early Education, Cochlear Implant, Hearing Aid
	INOKO Hidetaro	Chief Researcher	Intellectual Disabilities	Applied Behavior Analysis, Individual Guidance Plan
	KIKUCHI Kazufumi	Chief Researcher	Intellectual Disabilities	Autism, Creating the Class, Career Education
	OZAWA Michimasa	Chief Researcher	Intellectual Disabilities, Autism	Consultation, Social Support System
	MAKINO Yasumi	Chief Researcher	Speech and Hearing Impairment	Communication and Language Intervention, Language Acquisition, Communication Disabilities
	TAMAKI Munehisa	Chief Researcher	Autism	ADHD, LD
WAKUI Megumi	Researcher	Developmental Disabilities, Intellectual Disabilities	Cooperating Learning, Social Skills Training	



所属	名 前	役 職	専門分野	Key Words
教育 研修 情報 部	中 村 均	上席総括研究員 (研修担当(兼)情報・教育支援機器担当)・(兼)部長	教育学	情報教育, コンピュータ利用教育, アシスティブ・テクノロジー
	小 田 侯 朗	総括研究員 (研修企画担当)	聴覚障害	言語指導, 聾研究, 手話研究
	小 林 倫 代	総括研究員 (研修支援担当)	言語・コミュニケーション障害	地域支援システム, 保護者支援, 教育相談
	金 森 克 浩	総括研究員 (情報普及担当(兼)教育支援機器担当)	教育学	アシスティブ・テクノロジー, 肢体不自由, 情報教育
	大 崎 博 史	主任研究員	重度・重複障害	訪問教育, 医療的ケア, 学校コンサルテーション
	齊 藤 由美子	研究員	重度・重複障害	幼児期の教育支援, セルフ・ディターミネーション
	渡 邊 正 裕	研究員	支援機器	情報工学, 教材教具開発, iライブラリー
	土 井 幸 輝	研究員	福祉工学, 生活支援工 学, 人間工学	アクセシブルデザイン, 感覚代行, 視覚障害支援
	教育 相談 部	笹 本 健	上席総括研究員 (教育相談担当)・(兼)部長	重度・重複障害
田 中 良 広		総括研究員 (相談連携・普及担当)	視覚障害	教育相談, 自立活動, 教科指導
藤 井 茂 樹		総括研究員 (日本人学校・企業支援担当)	発達障害	地域支援, 学校支援
横 尾 俊		主任研究員	聴覚障害	教育相談, 言語発達, 聾学校の地域支援
植木田 潤		研究員	情緒障害・発達障害	教育相談, 精神分析的な心理療法, 愛着および関係性の障害
発達 障害 教育 情報 セン ター	渥 美 義 賢	上席総括研究員 (発達障害情報担当)・(兼)センター長	発達障害	情緒障害, 児童青年精神医学, 脳科学
	笹 森 洋 樹	総括研究員 (発達障害教育情報担当)	発達障害・情緒障害	通級による指導, LD・ADHD・高機能自閉症等, 学校・教師支援
	梅 田 真 理	総括研究員 (情報ネットワーク担当)	発達障害	通級による指導, LD・ADHD・高機能自閉症等, 学校支援
	大 城 政 之	主任研究員	発達障害	特別支援学級, LD・ADHD・高機能自閉症等, 学校支援
	海 津 亜希子	主任研究員	LD (学習障害)	アセスメント, 指導法, 個別の指導計画
	伊 藤 由 美	研究員	発達障害・情緒障害	関係性障害への支援, 教育相談

## ■ 特任研究員

名 前	所 属	役 職
西 川 公 司	放送大学	客員教授
寺 崎 千 秋	財団法人教育調査研究所	研究部長

Affiliation	Name	Position	Specialized Field	Key Words
Department of Teacher Training and Information	NAKAMURA Hitoshi	Research Director (In-service Teacher Training, Information Resources and Assistive Technology) Department Head	Educational Technology	Information Technology and Education, Computing Education, Assistive Technology
	ODA Yoshiaki	Senior Chief Researcher (Planning Curriculum Development of Teacher Training Course)	Deaf and Hard of Hearing	Communication and Language Intervention, Deaf Studies, Sign Language Studies
	KOBAYASHI Michiyo	Senior Chief Researcher (Survey on Teacher Training Support)	Communication Disabilities	Social Support System, Family Support, Educational Counseling
	KANAMORI Katsuhiko	Senior Chief Researcher (Information Resources, Assistive Technology)	Educational Technology	Assistive Technology, Physical/Motor Disabilities, Education of Information Technology
	OSAKI Hirofumi	Chief Researcher	Profound and Multiple Disabilities	Home/Hospital-Bound Education, Medical Care, School Consultation
	SAITO Yumiko	Researcher	Profound and Multiple Disabilities	Early Childhood Special Needs Education, Self-determination
	WATANABE Masahiro	Researcher	Assistive Technology	Information Technology for Education, Educational Materials, Assistive Technology Library
	DOI Kouki	Researcher	Welfare Engineering, Livelihood Support Engineering, Ergonomics	Accessible Design, Sensory Substitution, Support for Persons with Visual Impairment
	Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs	SASAMOTO Ken	Research Director (Counseling and Consultation) Department Head	Profound and Multiple Disabilities
TANAKA Yoshihiro		Senior Chief Researcher (Coordination and Dissemination)	Visual Impairments	Guidance and Counseling, Activities to Promote Independence, Course Instruction
FUJII Shigeki		Senior Chief Researcher (Japanese Schools Overseas Support and Collaboration with Japanese Companies)	Developmental Disabilities	Social Support, School Support
YOKOO Shun		Chief Researcher	Deaf and Hard Hearing	Guidance and Counseling, Language Development, Outreach Program of Schools for the Deaf
UEKIDA Jun		Researcher	Emotional Disabilities and Developmental Disabilities	Guidance and Counseling, Psychoanalytic Psychotherapy, Attachment Disorders, Relationship Disorders
Information Center of Education for Persons with Developmental Disabilities	ATSUMI Yoshikata	Research Director (Information of Developmental Disabilities) Center Head	Developmental Disabilities	Emotional Disabilities, Child and Adolescent Psychiatry, Neuroscience
	SASAMORI Hiroki	Senior Chief Researcher (Information of Developmental Disabilities)	Developmental Disabilities Emotional Disabilities	Resource Rooms, Support for Schools and Teachers, LD/ADHD/High-Functioning Autism
	UMEDA Mari	Senior Chief Researcher (Information Network)	Developmental Disabilities	Resource Rooms, LD/ADHD/High- Functioning Autism, School Support
	OSHIRO Masayuki	Chief Researcher	Developmental Disabilities	Special Classes, LD/ADHD/High- Functioning Autism, School Support
	KAIZU Akiko	Chief Researcher	LD (Learning Disabilities)	Assessment, Teaching Procedures, Individualized Education Plan
	ITO Yumi	Researcher	Developmental Disabilities, Emotional Disabilities	Support for Relatedness Disorders, Guidance and Counseling

## ■ Special-Appointment Researcher

Name	Affiliation	Position
NISHIKAWA Koji	The Open University of Japan	Guest Professor
TERASAKI Chiaki	Japan Educational Research Institute	Department Head



本研究所の研修事業は、各都道府県等における特別支援教育政策や教育研究及び教育実践等の推進に寄与する指導者の養成を目的として、以下の研修に特化して実施しています。

- ・都道府県等の特別支援教育政策等の推進に寄与する専門性の向上：【研究研修員制度】
- ・各障害種別に対応する指導者の専門性の向上：【専門研修】
- ・国の重要な特別支援教育政策や教育現場の喫緊の課題等に対応する指導者の養成：【各研究協議会】

## ■各都道府県等における特別支援教育施策や教育研究及び教育実践等の推進に寄与する指導者養成に資する研修

### 平成22年度国立特別支援教育総合研究所研修事業一覧

名称	期間	募集人員
特別支援教育研究研修員制度	平成22年4月14日(水) 平成23年3月18日(金)	10名
特別支援教育専門研修	第一期 視覚障害・聴覚障害教育コース 視覚障害教育専修プログラム 聴覚障害教育専修プログラム	平成22年5月10日(月) 平成22年7月9日(金) 40名
	第二期 情緒障害・言語障害・発達障害教育コース 自閉症・情緒障害教育専修プログラム 言語障害教育専修プログラム 発達障害教育専修プログラム	平成22年9月6日(月) 平成22年11月11日(木) 80名
	第三期 知的障害・肢体不自由・病弱教育コース 知的障害教育専修プログラム 肢体不自由教育専修プログラム 病弱教育専修プログラム	平成23年1月11日(火) 平成23年3月16日(水) 80名
政策課題の推進を図るための指導者研修		
交流及び共同学習推進指導者研究協議会	平成22年11月18日(木) 平成22年11月19日(金)	70名
特別支援教育コーディネーター指導者研究協議会	平成22年11月24日(水) 平成22年11月26日(金)	60名
教育現場の喫緊の課題の解決を図るための指導者研修		
発達障害教育指導者研究協議会 ※所外会場	平成22年8月5日(木) 平成22年8月6日(金)	120名
教職員の指導力の向上を図るための指導者研修		
特別支援学校寄宿舎指導実践指導者研究協議会	平成22年7月26日(月) 平成22年7月27日(火)	70名



研修棟外観  
Training facility



専門研修成果報告の様子  
Presentation of training results

\* 所内で行う研修事業の参加者は、原則として、研修員宿泊施設に宿泊して研修することとなっている。

NISE's training programs are designed to develop teachers who will promote the special needs education measures specified by prefectures and other municipalities, research on education, and educational practices. NISE specializes in the following training programs.

- ・Improvement of expertise to promote education policy for children with disabilities in prefectures and other municipalities: [1 year course]
- ・Improvement of expertise of teachers involved in various type of disabilities in special needs education: [2 months course]
- ・Development of teachers who deal with important national education policies for children with disabilities and urgent education issues [Workshops]

## ■ Training programs designed to develop teachers who will promote the special needs education measures specified by prefectures and other municipalities, research on education, and educational practices

### List of Training Programs, FY 2010

Programs	Term	Enrollment	
1 year course		April 14, 2010 – March 18, 2011	10
Programs for specific disability categories	Term I Courses for visual impairments, deaf and hard of hearing ( Training program for visual impairment ) ( Training program for hearing impairment )	May 10, 2010 – July 9, 2010	40
	Term II Courses for emotional disturbance, speech disorder and developmental disabilities ( Training program for autism and emotional disturbance ) ( Training program for speech and language disorders ) ( Training program for developmental disabilities )	September 6, 2010 – November 11, 2010	80
	Term III Courses for intellectual disabilities, motor disabilities and health impairments ( Training program for intellectual disabilities and ) ( Training program for physical/motor disabilities ) ( Training program for health impairments )	January 11, 2011 – March 16, 2011	80
Leader training for promoting the national policy issues			
Workshop for promoting joint activities and learning	November 18-19, 2010	70	
Workshop for special needs education coordinator	November 24-26, 2010	60	
Leader training for resolving urgent problems in special needs education			
Workshop for education of developmental disabilities * External venue	August 5-6, 2010	120	
Leader training for improving the expertise of teachers and school personnel			
Workshop for good practices of schools for SNE at dormitories	July 26-27, 2010	70	

\* Participants of training programs held at NISE usually stay at NISE's dormitory.



研修事業は、昭和46年の創設と同時に実施していますが、昭和47年度から本格的に開始して以来、現在までに1年間の研修は約960名、2ヶ月間程度の研修は約7,700名、その他の研修は約8,000名が修了しており、その大多数の方が各学校現場や教育行政機関等で活躍されています。



研修の様子  
Training scene



## ■情報通信技術を活用した研修コンテンツの提供

各都道府県等において、障害のある児童生徒等の教育に携わる教員の資質向上を図る取組を支援するため、研修コンテンツを開発し、インターネットを活用した講義の配信「インターネットによる講義配信」及び「特別支援教育専門性向上Web研修講座」を実施しています。

この研修コンテンツは、学校等の教育機関を対象としたもので、視聴するには登録が必要です。

### 1. インターネットによる講義配信

特別支援教育専門研修等の研修事業において、各障害等に関する所内研究職員による講義の一部を収録したものです。  
(平成22年4月現在、配信講義：54タイトル)

### 2. 特別支援教育専門性向上Web研修講座

各障害等に関し配信講義コンテンツとして体系的な整備を図り、より利便性がある配信システムとして、平成21年8月から公開を実施しています。

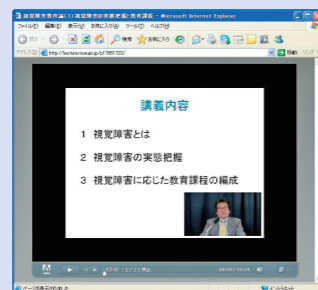
#### (コンテンツの内訳)

視覚障害教育論 (3本)、聴覚障害教育論 (3本)、知的障害教育論 (3本)、  
肢体不自由教育論 (3本)、病弱・身体虚弱教育論 (3本)、重複障害教育論 (6本)、  
言語障害教育論 (3本)、情緒障害教育論 (3本)、LD・ADHD・高機能自閉症等教育論 (6本)、  
障害児の生理と病理 (2本)、諸検査の基礎 (4本) 計39タイトル (平成22年4月現在)

●問い合わせ用e-mail：[v-haisin@nise.go.jp](mailto:v-haisin@nise.go.jp)

担当 (研修全般)：研修情報課研修係

〃 (システム関係)：研修情報課情報管理係



専門性向上Web研修講座配信画面の様子

Online training to improve expertise displayed on the monitor

NISE started to offer training programs in 1971 when it was founded. Since the commencement of full-scale training programs in FY 1972, NISE has trained approximately 960 trainees per year, about 7,700 trainees in two-month programs, and about 8,000 trainees in other training programs. Most of them are actively engaged in special needs education at schools and educational agencies.

## ■Providing the Training Contents Using ICT

NISE develops training programs to support prefectural initiatives to improve the quality of teachers for children with disabilities. NISE offers both online lectures and online training to improve expertise in special needs education.

These training courses are offered to schools and other educational institutions and require registration before they can be used.

### 1. Providing lectures over the Internet

These online programs are part of lectures on special needs education given by NISE's research staff for various type of disabilities.  
(54 titles as of April 2010)

### 2. Online training to improve expertise in special needs education

These online programs on disabilities are made systematically and provided through a more convenient distribution system.

#### (Outline of the programs)

Theory of education for visual impairment (three titles); Theory of education for hearing impairment (three titles); Theory of education for intellectual disability (three titles); Theory of education for physical/motor disabilities (three titles); Theory of education for health impairments (three titles); Theory of education for multiple disabilities (six titles); Theory of education for speech and language disorders (three titles); Theory of education for emotional disturbance (three titles); Theory of education for LD, ADHD, and HFA (six titles); Physiopathology of children with disabilities (two titles); The basics of tests and examinations (four titles) 39 titles in total (as of April 2010)

●Inquiries: [v-haisin@nise.go.jp](mailto:v-haisin@nise.go.jp)

General training: Training Unit, Section of Information and In-Service Training

System: Information Management Unit, Information and In-Service Training Section

※ This service is provided only Japanese



## ■特別支援教育のナショナルセンターとして担う教育相談事業

- ・臨床的研究のフィールドとして必要な教育相談、発生頻度の低い障害等の事例に関する教育相談を行います。
- ・国外に在住する日本人学校等の保護者や教員を支援するための教育相談を行います。



インターネットを使用した日本人学校との協議会の様子  
Online conference via Internet with Japanese schools overseas

## ■各都道府県等における教育相談実施機関支援事業

- ・全国教育相談機関をもとに、相談機関情報を提供します。  
全国教育相談機関データベース  
<http://www.nise.go.jp/sodan/kikan/toppage.html>
- ・教育相談実施機関の自己解決力の向上を推進するための支援として、学校コンサルテーションを行います。
- ・各都道府県等における教育相談機能等の質の向上に貢献するため、教育相談やコンサルテーション事例等を蓄積した教育相談データベースを運用します。
- ・ガイドブック等により、地域支援の在り方や海外で生活する障害のある子どもの支援に関する情報提供を行います。



## ■教育相談に関する研究事業

- ・在留邦人等への教育相談支援のため、日本人学校等の実態調査を行い、結果をWebで公開します。



問い合わせ先：独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 教育相談部  
〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5丁目1番1号  
FAX：046-839-6906  
E-mail：wsodan1@nise.go.jp

\*詳しくは、下記本研究所ホームページの教育相談のページをご覧ください。  
<http://www.nise.go.jp/blog/kyouikusoudan.html>

## ■Counseling and Consultation for Persons with Special Needs which is Expected to hand as a National Center for Special Needs Education

- ・ Provide counseling and consultation for persons with special needs required as a field of clinical research, and for cases that are difficult for a prefecture to respond such as rare type of disabilities.
- ・ Provide counseling and consultation for persons with special needs to support caregivers and teachers in Japanese school overseas.

## ■Support Services for Counseling and Consultation for Persons with Special Needs Agencies at the Prefectural Level

- ・ Provides information on counseling and consultation agencies based on the agency database.  
Database of counseling and consultation agencies in Japan  
<http://www.nise.go.jp/sodan/kikan/toppage.html>
- ・ Implement school consultation as a support to enhance problem-solving abilities of counseling and consultation agencies for persons with special needs.
- ・ Make use of accumulated case data of counseling and consultation to contribute to enhancement of the quality of counseling and consultation services for persons with special needs in each prefecture.
- ・ Provide information on support for communities and children with disabilities living abroad through guidebooks.

## ■Research on Counseling and Consultation for Persons with Special Needs

- ・ NISE conducts surveys of Japanese schools overseas and publishes the results on the website to support counseling and consultation activities for Japanese living overseas.

Inquiries: Department of Counseling and Consultation for Persons with Special Needs, National Institute of Special Needs Education  
5-1-1 Nobi, Yokosuka, Kanagawa, 239-8585 Japan  
F a x : +81-46-839-6906  
E-mail : wsodan1@nise.go.jp

\*For more information, please visit the counseling and consultation for persons with special needs page of the NISE website:

<http://www.nise.go.jp/blog/kyouikusoudan.html>

※ This page is written by only Japanese



本研究所では、特別支援教育の最新の研究成果等の普及や、障害のある子どもの理解啓発を進めるため、セミナーの開催や刊行物、Webサイト、メールマガジン等により情報の提供を行っています。また、特別支援教育に関する図書、その他の資料及び情報を収集・整理し、提供しています。

## ■国立特別支援教育総合研究所セミナー

我が国の特別支援教育研究の動向や最新研究成果の普及、及び今日的課題や今後進むべき方向を探るとともに、開かれた機関として本研究所の諸活動の理解啓発を図ることを目的として、「国立特別支援教育総合研究所セミナー」を開催しています。セミナーは、特別支援教育の研究者・専門家・教員等の参加を得て、障害のある子どもの教育内容・方法・技術等の諸問題について、広く情報交流の場を設けることとし、年2回開催しています。

### ◆国立特別支援教育総合研究所セミナーⅠ

特別支援教育研究の動向や最新研究成果の普及、あるいは今日的課題や今後進むべき方向を探るため、第一線で活躍している研究者、専門家及び本研究所職員など特別支援教育関係者による講演、研究発表、パネルディスカッション、参加者との研究協議等を行います。



研究所セミナーの様子  
NISE seminar

期日 平成23年1月27日～28日  
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター〈東京都〉

### ◆国立特別支援教育総合研究所セミナーⅡ

本研究所が実施している研究内容とその成果を普及し、各学校等の指導の場で役立てていただくため、重点推進研究等の研究成果発表及び研究協議を行います。

期日 平成23年2月28日  
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター〈東京都〉

## ■総合的な教育情報提供体制

### ■本研究所Webサイト (<http://www.nise.go.jp>)

本研究所Webサイトにより、特別支援教育関係文献目録等のデータベースなどをはじめ、障害のある子どもの教育に関する情報を総合的に提供しています。

#### ◆ポータルサイト「障害のある子どもの教育の広場」

利用者のニーズに対応した各種トピックスを掲載するほか、関係機関等へリンクできるようにしており、特に、「障害のある子どもの教育について学ぶ」コーナーでは、各障害のことなどについて理解してもらうとともに指導方法等について説明し、教職員の学習や研修をサポートするほか、広く一般に障害のある子どもの教育の理解を深めていただく内容としております。

#### ◆e-ラーニング

各都道府県等の特別支援教育センター等における研修を支援することとして専門性の高い内容や喫緊の課題などの講義をインターネットにより配信しており、e-ラーニング体制の構築を進めています。

#### ◆ウェブ・アクセシビリティ支援ツール（視覚障害者のための読み上げソフト等）

平成17年度より、アクセシビリティ向上を目的として、ウェブ・アクセシビリティ支援ツール（視覚障害者のための読み上げソフト等）を導入しています。

このほか、携帯電話用のサイトでも情報提供を行っています。



ポータルサイト  
「障害のある子どもの教育の広場」  
Portal site "Education Plaza for Children with Disabilities"



アクセシビリティ支援ツールを使用した  
本研究所Webページ  
NISE website using an accessibility support tool

NISE provides information through seminars, publications, a website, and an e-mail magazine to distribute the results of the latest research on special needs education and promote awareness of children with disabilities. NISE accumulates, pigeonholes, and presents books, materials, and information on special needs education.

## ■National Institute of Special Needs Education Seminars

NISE holds the following special needs education seminar twice a year. The purposes are to disseminate latest researches on special needs education, to explore today's issues or the way we should go, to get awareness about activities of our institute from many people, and to have a place to exchange information about educational contents, methods, and technology by researchers, experts, and teachers.

### ◆National Institute of Special Needs Education Seminar I

The seminar is undertaken for the purpose of exchanging information and outcomes of researches. The seminar is organized to arrange lectures and discussions with experts, staff of NISE, and audience.

Date: January 27 - 28, 2011

Place: National Olympics Memorial Youth Center (Tokyo)

### ◆National Institute of Special Needs Education Seminar II

The purpose of the seminar is disseminate outcomes of projects by NISE and to contribute to the development of educational practices at schools. The seminar includes presentation of key researches and discussions.

Date: February 28, 2011

Place: National Olympics Memorial Youth Center (Tokyo)

## ■Framework for Supplying Comprehensive Information for Special Needs Education

NISE's website (<http://www.nise.go.jp>) supplies comprehensive information on education for children with disabilities. It includes databases of bibliographies and other items related to special needs education.

The portal site "Shogai no aru Kodomo no Kyouiku no Hiroba (Education Plaza for Children with Disabilities)" presents a variety of topics that match the needs of site users, with links to other related institutions. In particular, the website's "Shogai no aru Kodomo no Kyouiku ni tsuite manabu (Learning about Education for Children with Disabilities)" section explains various disabilities to increase understanding as well as methods of instruction.

NISE is currently addressing the issue of e-learning to reinforce the content of this section. Furthermore, in order to support teacher training at special needs education centers in each of Japan's prefectures, NISE is providing courses on highly specialized and pressing issues over the Internet.

NISE's website introduced screen reader software for people with visual disabilities in April 2005. NISE also offers information available over its website for cell phones.



## ■図書室

図書室では、ナショナルセンターとして特別支援教育関連の図書・資料の収集・保存を行い、閲覧・参考調査・相互利用によるサービスの提供を行っています。下記の蔵書のほか、検索データベースの原典となる雑誌等の逐次刊行物や大学における研究成果、特別支援学校・学級の実践研究に関する研究紀要・報告書等約25,000種の資料を収集・保存し、一括して利用できるようにしています。

### ●蔵書

H22.4.1現在

区分	和書	洋書	点字(和)	点字(洋)	合計
総記	2,684	396	3		3,083
哲学	2,659	1,158	9		3,826
歴史	369	30	13		412
社会科学	19,684	3,957	176		23,817
自然科学	5,693	1,921	66	1	7,681
工学	753	54		6	813
産業	48	1			49
芸術	352	17	5		374
語学	950	322	102		1,374
文学	377	13	106		496
製本雑誌	12,143	9,415			21,558
合計	45,712	17,284	480	7	63,483



図書室の様子  
Inside of the Library

(備考) 雑誌種類数 和 1,394種 / 洋 507種

### ●データベース

下記の検索データベースを作成し、データを蓄積することにより情報の提供を行っています。

H22.4.1現在

データベース名称等	主な収録項目	収録件数・期間
特別支援教育関係文献目録 (特別支援教育関係の研究文献目録)	標題, 著者名, 発表誌名, 発表年月, 主題部門	91,633件 1964. 1~
特別支援教育実践研究課題 (全国の特別支援学校等の研究課題)	標題, 著書名, 発表誌名, 作成機関名, 発表年月, 抄録, 主題部門	49,495件 1980. 4~
国立特別支援教育総合研究所蔵目録 (本研究所蔵の和・洋図書及び雑誌・資料)	書(誌)名, 著書名, 発行者, 発行年, 所蔵情報	図書・資料 49,713件 雑誌等 16,259件 1971. 10~

### ●利用案内

特別支援教育に関する参考調査・相互利用・文献複写・閲覧に関しては下記をご覧ください。

<http://www.nise.go.jp/blog/toshoshitsu.html>

## ■メールマガジン

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所では、最新の情報をより多くの方に知ってもらうため、研究所メールマガジンを配信しています。

この研究所メールマガジンは、これまで研究所が行ってきたさまざまな情報提供の取組に加えて、本研究所の活動や特別支援教育に関する情報をタイムリーにお届けします。

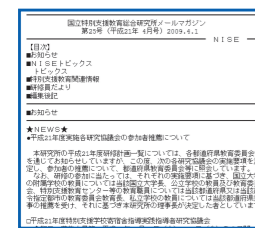
### ★内容

- 本研究所の研究成果の紹介
- 研修コースに関する情報 (実施予定, 受講者募集等)
- 本研究所主催のセミナー等本研究所主催のイベント情報 (開催予定, 参加者募集, 結果報告等)
- 特別支援教育に関するトピックス
- 本研究所からのお知らせ
- その他

\* メールマガジンの登録は以下のアドレスで行えます。

<http://www.nise.go.jp/blog/magazine.html>

携帯電話で即アクセス ▶▶▶



## ■Library

As the national center of special needs education, the NISE Library collects books, materials and information related to special needs education. The library makes the books and materials available for research activities and other purposes. The library offers interlibrary loan service as well. In addition to the books listed below, the library collects approximately 25,000 types of materials to be input into searchable databases, including periodicals and other serial publications, research results published by universities, and proceedings and reports on practical studies of schools for special needs education and classes. All these books and materials are available to users.

### ●Book Collection

as of April 1, 2010

Classification	Japanese	Foreign	Braille (Japanese)	Braille (Foreign)	Total
General works	2,684	396	3		3,083
Philosophy	2,659	1,158	9		3,826
History	369	30	13		412
Social sciences	19,684	3,957	176		23,817
Natural sciences	5,693	1,921	66	1	7,681
Technology	753	54		6	813
Industry	48	1			49
The Arts	352	17	5		374
Language	950	322	102		1,374
Literature	377	13	106		496
Boundary	12,143	9,415			21,558
Total	45,712	17,284	480	7	63,483

Periodicals: 1,394 (Japanese), 507 (Foreign)

### ●Databases

The NISE Library provides the following searchable databases as part of its information services.

as of April 1, 2010

Database	Entries	Number of Entries Period of Entries
Catalog of Literature on Schools for Special Needs Education (Catalog of research reports in schools for SNE)	Titles, authors, names of publications, dates of issues, and subject categories	91,633 January, 1964 -
Subjects Database of Applied Researches in Special Needs Education (Subjects studied by Schools for special needs education)	Titles, authors, names of publications, publishers, dates of issues, summaries, and subject categories	49,495 April, 1980 -
NISE Online Public Access Catalog (Japanese and foreign books, periodicals and other materials)	Titles, authors, publishers, dates of publication, and library information	Books and Materials 49,713 Periodicals 16,259 October, 1971 -

### ●Library guide

Please visit the website below for research, use, and copying and reading of literature on special needs education.

<http://www.nise.go.jp/en/information.html>

## ■Email Magazine

NISE distributes an e-mail magazine containing the latest information to as many people as possible.

The email magazine provides timely information on research activities and policy of education for children with disabilities, in addition to providing a range of information on current research.

### ★Details

- Dissemination of research results
- Information on training courses (e.g. schedule, calls for applications)
- Information on research institute events such as seminars (e.g. courses, calls of applications, outcome reports)
- Topic of policy of education for children with disabilities
- Announcements from NISE
- etc.

\* Please register at the website below to subscribe to the e-mail magazine.

<http://www.nise.go.jp/blog/magazine.html>

※ Email magazine is available in Japanese version only

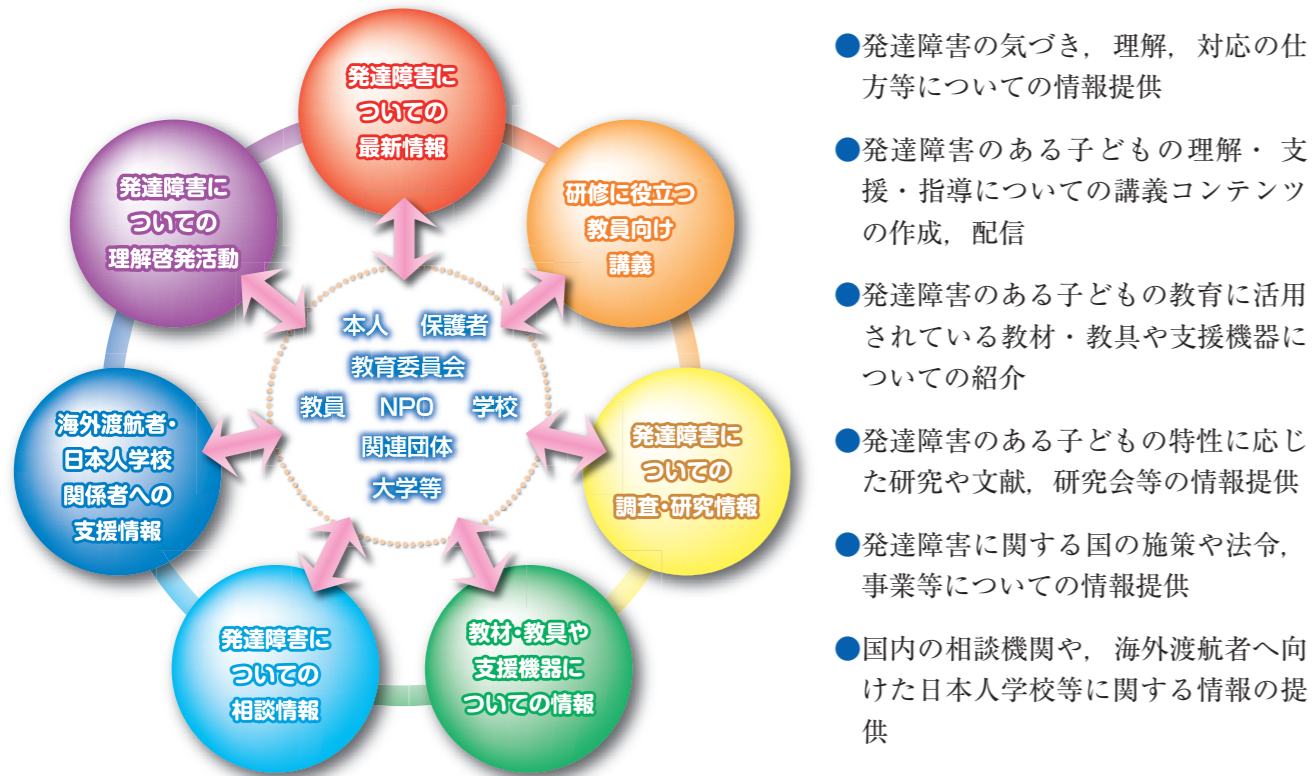


発達障害に関する様々な情報を調査・収集・整理し、Webサイト等を通じて広く情報普及活動に取り組んでいます。その中で、教員向け研修講義については、コンテンツを充実させて提供するとともに、教育関係機関と連携を図り、校内研修等における「研修講義」の活用を進めています。なお、全国の教育関係機関や厚生労働省国立障害者リハビリテーションセンター内に設置された発達障害情報センター等、関係諸機関との連携及び調整も行っています。

## ■発達障害教育情報センター

平成20年8月27日に発達障害教育情報センターとしてWebサイト (<http://icedd.nise.go.jp/>) を開設しました。

Webサイトでは、図のように本人や保護者、教育関係者、大学、学会、NPO、関連団体などと連携し、7つの機能を中心に情報を収集し、発信しています。



全ての国民が発達障害を理解し、共に手を携えるノーマライゼーション社会を目指した理解・啓発を行っていきます

Webサイトの構築に当たっては、使いやすく、親しみやすい構成とデザイン、最大限のアクセシビリティの確保、ユーザーのニーズを把握するアンケートの実施等に留意しています。

また、Webサイトによる情報提供を主としながら、全国の教育関係機関と連携を図り、双方向の情報交換にも取り組んでいます。現在は、「研修講義」を利用した双方向的な校内研修等の在り方や、都道府県等の教育委員会・教育センターとの情報の収集・発信等について検討しています。今後は、これらの情報を整理し、提供する情報の充実を進めていきます。

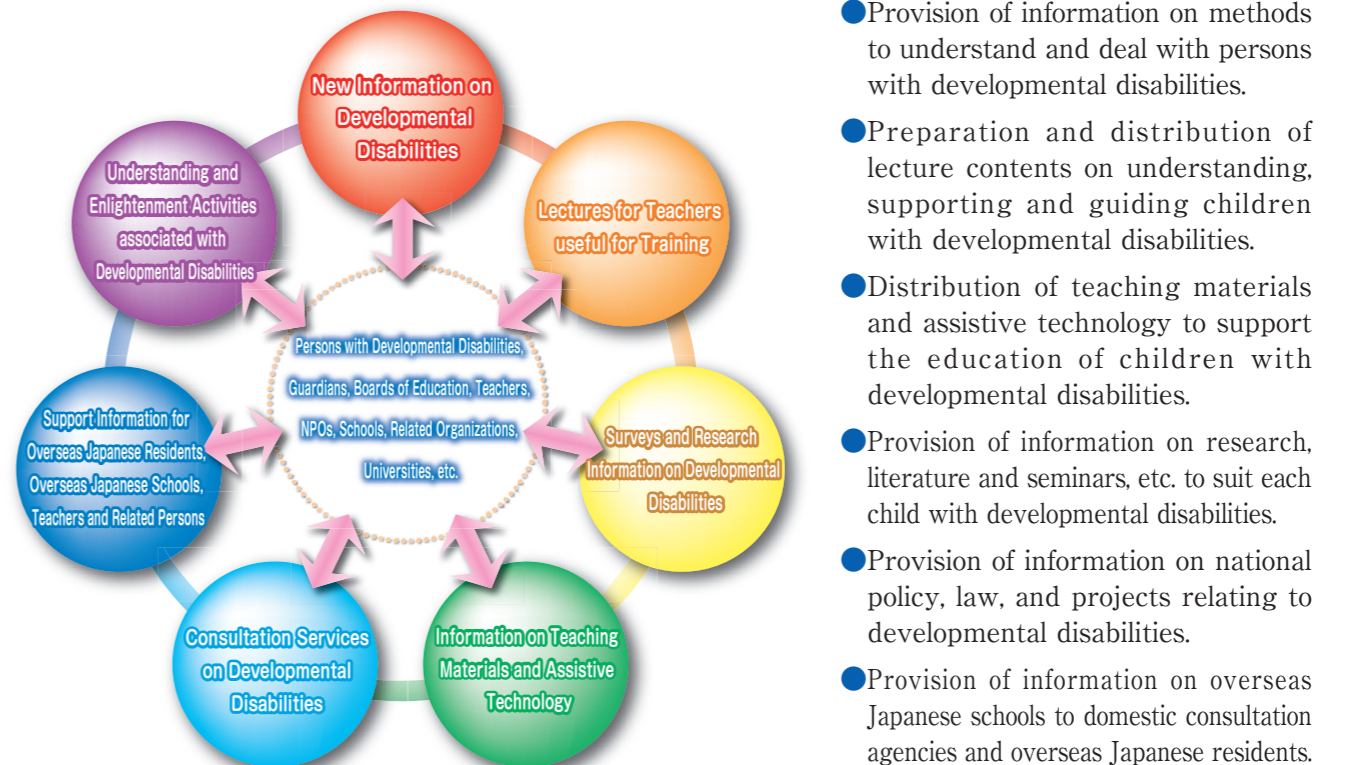
なお、厚生労働省国立障害者リハビリテーションセンター内に設置されている発達障害情報センターとも連携しつつ、国民全体の理解と支援を得られるよう、広範な関係者への情報提供を目標としています。

NISE searches, collects, and organizes information on developmental disabilities and offers a broad range of information services on the website. It upgrades and provides training lectures for teachers, collaborates with educational institutions, and encourages the use of online lectures at schools for special needs education. NISE also collaborates and coordinates with related organizations including educational institutions throughout Japan, as well as the Development Disability Information Center established within the Ministry of Health, Labor and Welfare National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities.

## ■Information Center of Education for the persons with Developmental Disabilities

On Aug 27th, 2008, a website (<http://icedd.nise.go.jp/>) was set up for the Information Center of Education for the persons with Developmental Disabilities.

As shown on the diagram, the website is presented in cooperation with persons with developmental disabilities, guardians, teachers and other personnel, universities, academic societies, NPOs, and related groups, and collates information centered on 7 functions.



The goal is to promote understanding and enlightenment to enable the public as a whole to understand persons with developmental disabilities, and together to form a normalized society.

The website design is easy to use, has a friendly structure, ensures maximum accessibility, and incorporates suggestions from a user questionnaire.

The Information Center of Education for the persons with Developmental Disabilities mainly provides information services on the website. In addition it collaborates with educational institutions throughout Japan, and promotes interactive information exchange. Currently, the Center is working on interactive in-school training using online lectures and the collection/transmission of information from/to boards of education and educational centers in prefectures and other municipalities. The Center plans to organize and arrange the collected information and improve its information services.

NISE further hopes to provide information to a broad spectrum of users, supporting understanding amongst the wider public, in cooperation with the Information of Developmental Disabilities Center established within the Ministry of Health, Labour and Welfare National Rehabilitation Center for Persons with Disabilities.



諸外国の大学、研究機関等と連携・協力し、国際セミナー等を実施して、諸外国の特別支援教育の取り組みについて情報を収集・分析を行うとともに、我が国の特別支援教育の取り組みや研究成果を発信します。また、政府関係機関等との連携によりアジア諸国を中心に国際的な貢献を果たします。

## ■国際的な情報発信センター – 諸外国の研究機関との連携・協力、交流の推進 –

### ●国際比較

- ・諸外国の障害のある子どもの教育に関する制度等について、調査研究や当該国の障害のある子どもの教育の実際に詳しい現地在住者に依頼する「外国調査研究協力員制度」等を活用して、情報の収集・分析をし、国際比較を行っています。また、得られた成果は国内外に向けて発信しています。
- ・諸外国の情報収集等のために、国際学会等に研究員を派遣しています。

### ●アジア・太平洋特別支援教育国際セミナーの開催

本研究所は、アジア・太平洋諸国における特別支援教育の発展に資するため、各国ユネスコ国内委員会から推薦された代表者を日本に招聘し、国際セミナーを毎年開催しています。

平成22年度は、12月6日(月)～9日(木)の日程で開催します。

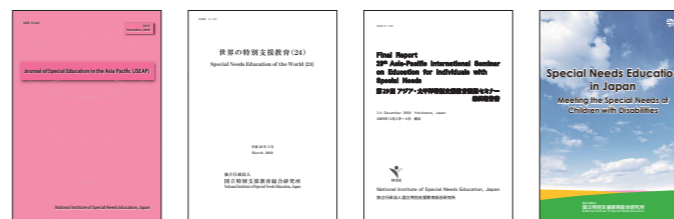
本セミナーでは、先導的立場にある研究者、教員、行政官等が一堂に会して、アジア・太平洋地域の障害のある子どもの教育に関する研究、教育実践、行政施策などを発表し協議を行います。



左記セミナーの様子  
Seminar scene

### ●アジア・太平洋地域の特別支援教育に資する、本研究所の研究成果等の発信

- ◆NISE Newsletter (英文)
- ◆Journal of Special Education in the Asia Pacific (JSEAP, 英文)
- ◆世界の特別支援教育
- ◆英文紀要 (NISE Bulletin)
- ◆Final Report of the Asia-Pacific International Seminar on Education for Individuals with Special Needs (英・日文)
- ◆Special Needs Education in Japan -Meeting the Special Needs of Children with Disabilities- (DVD:英語版)



## ■国際貢献 – 特別支援教育の発展・充実に向けた国際貢献 –

### ●政府関係国際機関等への協力

政府の国際協力の一環として、アジア諸国を中心に、諸外国における特別支援教育の発展を支援しています。

### ●交流協定に基づくセミナーの開催及び外国人研究者との研究交流

外国の研究機関と交流協定を締結し、研究集会等の実施、特別支援教育情報の交換、研究者の交流、また、研究交流のための特別支援教育セミナーを行っています。

#### ◆交流協定締結機関

1. 韓国国立特殊教育院 (1995年11月締結)
  - ・平成12年度から毎年1回、日韓相互で「日韓特別支援教育セミナー」を開催
  - ・平成22年度 第11回日韓特別支援教育セミナー
2. ケルン大学人間科学学部 (ドイツ) (1998年11月締結)

## ■招聘・派遣 – 研究職員の派遣及び外国人研究者等の受入による研究交流 –

国際学会等への参加及び発表のために研究員を海外に派遣すると共に、外国人研究者を受け入れ、研究交流を行っています。

#### ◆研究職員の外国への派遣数

年度・人数	2006	2007	2008	2009
本研究所専門研究	8	16	11	6
科学研究費補助金による研究	18	4	9	6
交流協定に基づく派遣	2	3	0	0
政府機関からの要請に基づく国際会議等出席	2	5	2	1
その他	3	9	5	9
合計	33	37	27	22

#### ◆外国人研究者等の受入数

年度・人数	2006	2007	2008	2009
交流協定に基づく招聘	3	1	3	0
アジア・太平洋特別支援教育国際セミナーへの招聘・参加	13	16	11	14
研究交流・研修の受入	33	41	10	13
視察等の受入	79	62	19	64
合計	128	120	43	91

NISE collaborates with overseas universities and research institutes, holds international seminars, collects and analyzes information on the trends in special needs education in foreign countries, and publishes information on Japan's efforts in special needs education and research results.

NISE also makes international contributions, chiefly to Asian countries, in cooperation with government agencies.

## ■NISE's Role as International Information Center

### -Promotion of cooperation, collaboration and exchange with research institutes overseas-

### ●International Comparative Research

- ・NISE collects and analyzes information on educational systems for children with disabilities in foreign countries, and also conducts international comparisons. Information is collected through surveys, studies, and the "foreign correspondent system" designed to collect information from overseas experts in the target countries. NISE publishes the results of these activities to be shared domestically and internationally.
- ・NISE sends researchers to international academic conferences to collect from and exchange information with various foreign countries.

### ●Asia-Pacific International Seminar on Education for Individuals with Special Needs

NISE hosts an international seminar every year for the development of special needs education in the Asia-Pacific region, inviting representatives recommended by the UNESCO National Commission of each country.

The FY 2010 seminar will be held from December 6 (Monday) to December 9 (Thursday).

Researchers, teachers, and administrators who lead special needs education will gather together at this seminar, and present and discuss research, educational practices, and administrative measures in the Asia-Pacific region.

### ●Publications of the research outcome to contribute to special needs education in the Asia and Pacific region

- ◆NISE Newsletter (English)
- ◆Journal of Special Education in the Asia Pacific (JSEAP/English)
- ◆Special Needs Education of the World
- ◆NISE Bulletin
- ◆Final Report of the Asia-Pacific International Seminar on Education for Individuals with Special Needs (English/Japanese)
- ◆Special Needs Education in Japan -Meeting the Special Needs of Children with Disabilities- (DVD/English)

## ■International Contributions -International contribution for development of special needs education-

### ●Cooperation with government agencies and international organizations

NISE supports the development of special needs education in many foreign countries, mainly in Asia, as a part of governmental international cooperation activities.

### ●Hosting International Seminar and Research Exchange with Foreign Researchers under the Agreement of Exchange

NISE has concluded the Agreement on International Collaborative Research Projects, and exchanges information on special needs education, enforces staff exchange and holds international seminars between the research institutes in overseas.

#### ◆International Collaboration between Foreign Organizations

1. Korea National Institute of Special Education (since November, 1995)
  - ・NISE/KNISE Seminar on Special Needs Education is held annually since FY 2000 hosted alternately by NISE and KNISE.
  - ・The 11th NISE/KNISE Seminar on Special Education at NISE (FY 2010)
2. The Faculty of Special Needs Education, University of Cologne, Germany (since November, 1998)

## ■Research Exchange

NISE sends researchers to participate in and to present research results at international academic conferences, NISE also invites, as well as welcomes, foreign researchers for research exchange.

#### ◆Number of NISE Staff Sent to Other Countries

FY/No. of researchers	2006	2007	2008	2009
NISE Specialized Research	8	16	11	6
Grant-in Aid for International Scientific Program	18	4	9	6
Interchange Agreement	2	3	0	0
International conferences based on the request from the government office attendance	2	5	2	1
Others	3	9	5	9
Total	33	37	27	22

#### ◆Visitation of Foreign Researchers

FY/No. of researchers	2006	2007	2008	2009
Invitation by International Exchange Acceptance	3	1	3	0
Invitation/Participation for Asia-Pacific International Seminar	13	16	11	14
International research/ Collaborative training	33	41	10	13
Study Visits	79	62	19	64
Total	128	120	43	91



■全国の特別支援学校等との連携・協力

本研究所では、全国の特別支援学校や小・中学校などから研究協力機関・研究協力者に委嘱し、研究課題等に関する情報・資料提供、指導・助言、共同開発・研究、開発した指導法・試作の実践、教材開発などの協力を得ることにより、特別支援教育に関する実地的・実践的な研究の円滑な推進を図っています。

また、平成16年度からは、本研究所と共同で研究することを希望する機関「研究パートナー」を全国から募集し、お互いの課題意識や研究方法、研究資源などを共有することにより、教育現場のニーズに対応した、相互により意義のある研究を推進しています。

◆研究協力機関・研究協力者、研究パートナー件数一覧表／平成21年度

(協力機関内訳)		(協力者内訳)		(研究パートナー内訳)	
学校	50機関	学校関係者	59人	学校	12
都道府県・市機関	2機関	大学関係者・研究者	40人	大学・研究所	2
その他	5機関	都道府県・市関係者	4人	都道府県・市機関	2
		その他	15人		

■筑波大学附属久里浜特別支援学校との相互協力

◆筑波大学附属久里浜特別支援学校の概要

筑波大学附属久里浜特別支援学校は、昭和48年9月に、国立特別支援教育総合研究所が行う実地的研究に協力する目的で、重度・重複障害児を対象に教育を行う養護学校として設置された国立久里浜養護学校を母体として、平成16年4月1日の国立大学等の法人化に伴い、筑波大学の附属の知的障害を併せ有する自閉症



児を対象に教育を行う、幼稚園と小学部を置く養護学校として設置されました。

同校では、自閉症のある幼児・児童に対して、幼稚園及び小学校に準ずる教育が行われるとともに、筑波大学における幼児・児童の教育に関する研究の推進や、学生の教育実習の実施等に対する協力などが行われています。

なお、平成16年7月、本研究所と筑波大学との間で教育研究交流に係る協定を締結し、本研究所と同校は、これまでと同様、相互協力の下に研究活動や研修事業等を推進しています。

◆筑波大学附属久里浜特別支援学校における教育・研究活動

筑波大学附属久里浜特別支援学校では、幼児・児童の指導に当たり、本人や保護者の期待などを踏まえた上で、一人一人の実態に即した個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成して指導が行われています。また、自閉症の障害の特性を考慮し、コミュニケーションを円滑に行うための写真・絵・文字カード等の活用、混乱することなく行動や活動するための着替えのコーナー等の設置、個別学習や自由遊びの場所の設定など、幼児・児童にとって分かりやすい教育環境の整備にも力が注がれています。

現在、同校は、文部科学省の研究開発学校（平成22年度）の指定を受け、本研究所の研究職員による協力のもと、研究開発課題である「自閉症児のための教育課程の研究開発」の研究を進めています。

■Collaboration with Schools for Special Needs Education throughout the Country

NISE collaborates with schools for special needs education and elementary/lower secondary schools throughout Japan for smooth promotion of practical researches. Those schools as research partnership cooperates in provision of information and data concerning research project, guidance, advice, collaborative research & development, developed teaching method, experimental practice & development of teaching materials.

Furthermore, since 2004, NISE has started to recruit organizations across the country as "Research Partners" which hope to conduct collaborative research with NISE. The purpose of this new partnership is to carry on significant research in accordance with educational needs in real classroom situation by sharing mutual consciousness of challenges, method of researches and research resources.

◆List of Number of Cooperative Organizations, Collaborators and Research Partners, FY 2009

(Breakdown of Cooperative Organizations)		(Breakdown of Collaborators)		(Breakdown of Research Partners)	
Schools	50	School Officials	59	Schools	12
Prefectural and City Government-Affiliated Organization	2	University Officials and Researchers	40	Universities and Institutions	2
Others	5	Prefectural and City Government Officials	4	Prefectural and City Government-Affiliated Organization	2
		Others	15		

■Collaboration with Special Needs Education School for Children with Autism, University of Tsukuba

◆Outline of Special Needs Education School for Children with Autism University of Tsukuba

The National Special Needs Education School for Children with Autism was originally established in September, 1973 to provide educational services for severely and/or multiply disabled children under close cooperation with National Institute of Special Needs Education. According to "The Structural Reform of Universities" by the minister of MEXT, the school restarted in April 1, 2004 as Kuribama School for Children with Autism, University of Tsukuba which has kindergarten and elementary department to provide educational services for autistic children with intellectual disabilities.

As well as conducting education based on mainstream schools, the school cooperated with University of Tsukuba in promotion of research on education for children with disabilities and implementation of teaching practice by the student teachers.

In July, 2004, University of Tsukuba concluded memorandum on educational research with NISE and has promoted research activities and training programs under the mutual cooperation.

◆Research and Educational Activities

The school provides individualized education, according to Individualized Support Program and Guidance Program in response to each child's need, based on their and their parent's requests. Additionally, in consideration of the characteristics of autism, the school provides classes such as using photos pictures and word cards to facilitate communication. The school has also committed to improvement of educational environment which is comprehensible for children by setting up a dressing room to act and work without being confused and establishing rooms for individual studies and playing freely.

The school, as a designated for research and development by MEXT (FY 2010), now conducts a research titled "Research and Development on Curriculum for Children with Autism" receiving counsel and guidance from researchers in NISE. The research aims to organize curriculum for autistic children with intellectual disabilities in line with fixed class hours by selecting effective teaching contents through daily educational practice.



## ■予算 Budget

平成22年度 予算 Budget of Annual Expenditure for FY 2010			単位：千円 Unit: 1,000 yen
運営費 For Enterprise	施設費 For Facility	総額 Total	
1,138,263	47,508	1,185,771	

## ■敷地・建物 Site and Building

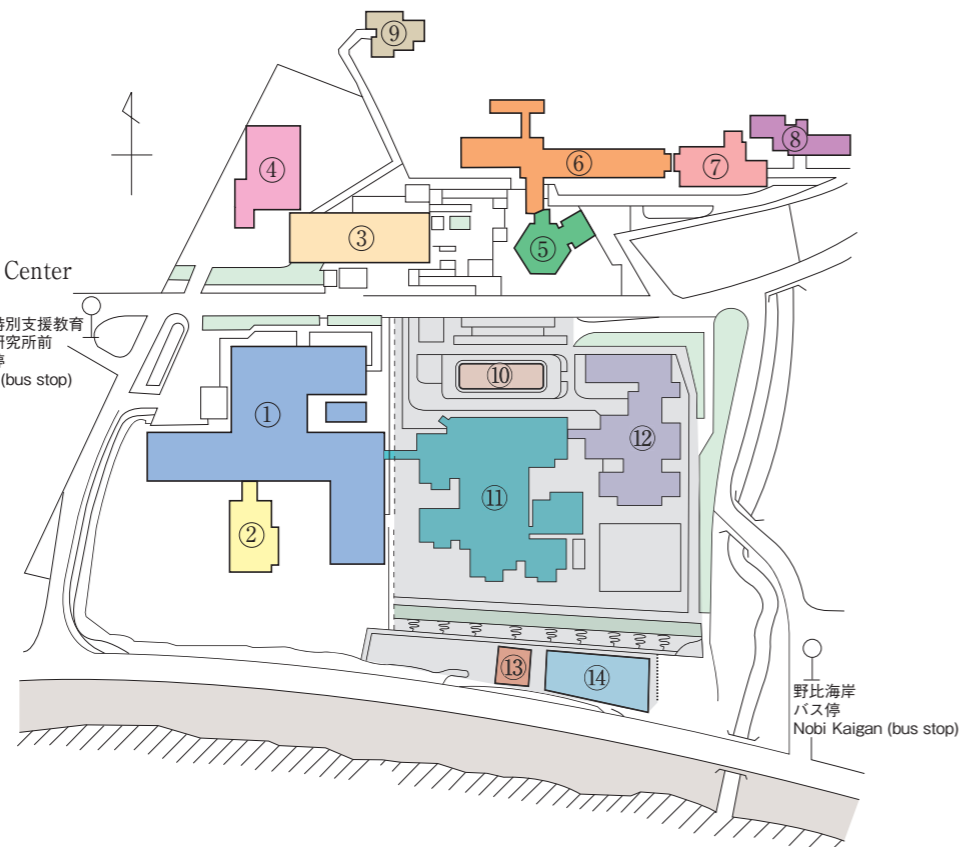
	面積(m <sup>2</sup> ) Area (m <sup>2</sup> )
敷地面積 Total Area	75,226.88
建物面積 Area of Building	17,309.31
① 研究管理棟 Administration Building	7,442.15
② 特別支援教育情報センター棟 The Information Center of Special Needs Education Building	1,901.89
③ 研修棟 Building for In-service Training	1,344.51
④ 体育館 Gymnasium	1,737.65
⑤ 食堂棟 Canteen	396.79
⑥ 西研修員宿泊棟 West Dormitory for In-service Trainees	2,064.14
⑦ 東研修員宿泊棟 East Dormitory for In-service Trainees	1,371.00
⑧ 生活支援研究棟 Research Unit for Natural Living Environment	231.46
⑨ 職員研修館 Welfare Facility	131.40
その他 Others	688.32



研究管理棟外観（上）、宿泊棟及び食堂（下）  
Appearance of Administration Building (above)  
Dormitory and Canteen (below)

## ■筑波大学附属久里浜特別支援学校 Special Needs Education School for Children with Autism, University of Tsukuba

- ⑩ 研究管理棟  
Administration Building
- ⑪ 校舎  
School Building
- ⑫ 寄宿舍  
Dormitory for Children
- ⑬ 久里浜会館1号館  
Welfare Facility
- ⑭ 生活・運動学習センター  
ADL and Physical Education Center



## ■名称・所在地 Organization name and address

名称 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所  
住所 〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1  
電話 企画調整課 046(839)6806 Fax.(839)6919  
総務課 046(839)6803 Fax.(839)6918  
研修情報課 046(839)6827 Fax.(839)6915

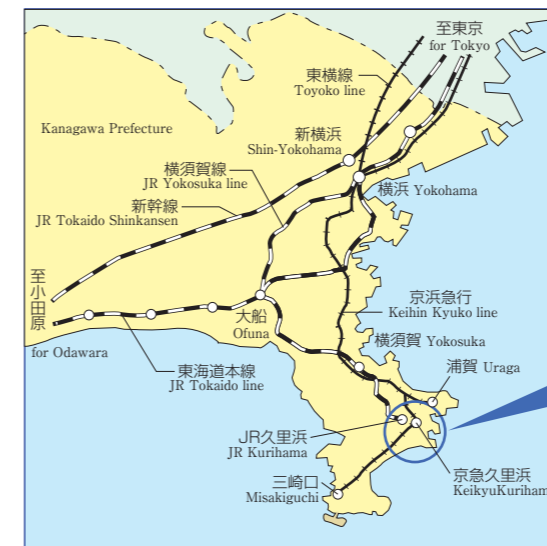
Organization name: National Institute of Special Needs Education  
Address: 5-1-1 Nobi, Yokosuka, Kanagawa, 239-8585 Japan  
Phone: Planning and Coordination Section +81-46-839-6806  
Fax +81-46-839-6919  
General Affairs Section +81-46-839-6803  
Fax +81-46-839-6918  
Information and In-service Training Section +81-46-839-6827  
Fax +81-46-839-6915

## ■交通案内 Transportation

### 研究所・学校 Institute & School

- 京浜急行電鉄 京急久里浜駅下車 バス2番のりばより国立久里浜病院行で約15分、国立特別支援教育総合研究所下車すぐ  
バス2番のりばより野比海岸行（JR久里浜駅経由）で約20分、終点下車300m  
又はタクシー約8分
- JR横須賀線 久里浜駅下車 バス5番のりばより野比海岸行（京急久里浜駅始発）で約15分、終点下車300m  
又はタクシー約10分
- From Keikyu Kurihama Station on the Keihin Kyuko Line  
Take a bus bound for the National Kurihama Hospital from bus stop No.2, and get off at the "NISE" bus stop (about 15 minutes from the station). You will find NISE in front of the bus stop.  
Take a bus bound for Nobi Kaigan (via JR Kurihama Station) from bus stop No. 2, and get off at the last bus stop (about 20 minutes from the station). NISE is 300 meters from the bus stop.  
Take a taxi to NISE (about 8 minutes).
- From Kurihama Station on the JR Yokosuka Line  
Take a bus bound for Nobi Kaigan from bus stop No. 5 (The bus comes from Keikyu Kurihama Station), and get off at the last bus stop (about 15 minutes). NISE is 300 meters from the bus stop.  
Take a taxi to NISE (about 10 minutes).

### ■交通案内図 Wide area map



### ■周辺図 Area map





NISE ロゴマークデザイン



春になると力強く芽吹く若葉。そのイメージである瑞々しさ、若々しさ、力強さを、特別支援教育のイメージと重ね合わせました。ロゴマークの上に配した丸い形は「障害のある子どもたちや保護者」を、その下に配した左の若葉は「国立特別支援教育総合研究所」を、右の若葉は「特別支援学校・幼・小・中・高等学校等の教育機関や福祉・医療・労働等関係諸機関などの関係機関」を表しています。二つの若葉は、お互いに連携・協力しながら、子どもたちや保護者を支えています。

## あなたの専門性を高めるメルマガ！

特別支援教育の最新情報を毎月お届けします。

登録はこちら ▶▶▶

<http://www.nise.go.jp/magazine/>

携帯電話で即アクセスしたい！ QRコードで ▶▶▶



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

National Institute of Special Needs Education, Japan

〒239-8585 神奈川県横須賀市野比5-1-1

5-1-1 Nobi, Yokosuka, Kanagawa, 239-8585 Japan

Phone:046-839-6810 Fax:046-839-6919(企画調整課)

URL = <http://www.nise.go.jp>

平成22年6月発行 特教研D-294